

事項一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件

七五六 一月三日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

平和条約及スペー協定ノ完全履行ヲ独国ニ迫
ル仏國政府ノ独國政府宛公文ニ關シ請訓ノ件

附記一 大正九年十二月三十一日附仏国外務省ヨリ在仏

國獨國大使館宛覺書仮訳文

獨國ノ条約実施ニ関シ注意喚起ノ件

二 大正九年十二月三十一日附在本邦獨國大使ヨリ

内田外務大臣宛覺書仮訳文

三 大正九年十二月二十五日在本邦獨國大使館參事官ヨリ陸軍側ヘノ申出

条約実施ニ關シ陸軍側ノ好意的援助要請ノ件

条約実施ニ關シ日本政府ノ援助方要請ノ件

大正九年十二月二十五日在本邦獨國大使館參事官ヨリ陸軍側ヘノ申出

条約実施ニ關シ陸軍側ノ好意的援助要請ノ件

大正九年十二月二十五日在本邦獨國大使館參事官ヨリ陸軍側ヘノ申出

条約実施ニ關シ陸軍側ノ好意的援助要請ノ件

大正九年十二月二十五日在本邦獨國大使館參事官ヨリ陸軍側ヘノ申出

条約実施ニ關シ陸軍側ノ好意的援助要請ノ件

大正九年十二月二十五日在本邦獨國大使館參事官ヨリ陸軍側ヘノ申出

条約実施ニ關シ陸軍側ノ好意的援助要請ノ件

第一号（至急）
(一月五日接受)

平和条約並ニ「スペー」協定ノ完全ナル履行ヲ独逸ニ迫ル

為十二月三十一日附「ノート」ヲ仏国外務省ヨリ在当地獨逸大使館ニ発送シタル旨三十一日附ヲ以テ当国外務省ヨリ

當館宛ニテ右「ノート」ノ写ヲ添ヘテ一月二日來翰アリ該

來翰ニ依レバ本件ハ「ヴェルサイユ」軍事會議ヨリ大使会

大正九年十二月三十一日附仏國ノ対獨覺書仮訳文

獨國ノ条約実施ニ關シ注意喚起ノ件

一九二〇年七月「スペー」議定書ニ基キ且「ヴェルサイユ」

条約ノ完全ナル実施ノ為独逸政府ハ左ノ通約定セリ

一、住民自衛団及保安警察隊ノ武装解除ニ直ニ着手スヘキコト

二、普通人民ノ所有スル一切ノ武器ヲ直ニ引渡サシムルコト

三、直ニ徵兵制度ヲ廢止シ且長期兵役制ノ軍隊ヲ組織スルコト

四、条約ノ認ムル限度ヲ超ユル一切ノ軍需品ヲ破壊ノ為若クハ破壊ヲ容易ナラシムル為聯合国ニ引渡スコト

聯合国政府ハ其代償トシテ正規軍ノ兵數ヲ拾万人ニ減スヘキ期限ヲ一九二一年一月十日迄延期スルコトヲ承諾セリ

「スペー」議定書ニ定メタル期限ノ將ニ終了セントスル時ニ當リ仏國政府ハ左ノ検証ヲ為スノ義務ヲ有ス

一、独逸政府ハ普通人民ハ官憲ニ交付セスト称シ未タ帝国

武装解除委員ノ報告セル武器ノ一小部分ヲ監督委員ニ引渡シタルニ過キス故ニ「スペー」議定書中ノ此ノ点ニ関

一二 独國ノ対独平和条約違反ニ關スル件 七五六

議へ提出セル十二月三十日附ノ報告ニ基キ且独逸ノ履行ハ本年一月一日以前ニ完了セザル可カラザルモノナルニ付早速独逸ヘ申出ヅルヲ要スルモノト認メ大使會議ノ開催ヲ待タズ申入レタルモノニシテ決シテ仏國ガ单独行為ニ出ヅルノ意思ヲ有スルモノト看做サザラン事ヲ諒承アリタシト申添越セリ尚対独「ノート」ノ全文ハ在本邦仏國大使ヨリ閣下ヘ提出スル様電信済ミノ旨ヲ述べ本件ノ次第ヲ本使ヨリ閣下ヘ上申アリタシト附記シアリ就テハ本件ハ何レ来ル七日ノ大使會議ニ附議セラル可キニ付右期日前ニ何分ノ御訓電ヲ得度シ将タ又本件ニ関スル仏國ノ態度ハ更ニ追電ス可キモ察スルニ難カラズ且英國ノ態度ハ其後ノ新聞情報ニ依ルモ客年往電第一八八六号ノ英國大使所言ノ通りナル模様ニ付右御訓電前記ノ時期迄ニ接到セザル場合ニハ本使ニ於テモ大勢ニ順応シ独逸ニ対シ條約及協定ノ完全ナル履行ヲ迫ルノ態度ニ出ヅル心組ナルニ付右御承認アリ度シ
在歐米各大使ヘ転電セリ

（附記二）

スル約定ハ未タ履行セラレス

二、帝國武装解除委員ハ住民自衛団所有ノ武器ノ引渡ヲ行フヘキ時日ヲ未タ正式ニ監督委員ニ通知セス独逸政府ハ

十二月九日附書翰ヲ以テ北部及中央独逸ノ住民自衛団所

有ノ武器ハ一九二一年三月十日前ニハ引上クルコトヲ得

サル旨ヲ監督委員ニ通知シタリ独逸政府ハ監督委員累次

ノ命令ニ拘ラス十二月九日附及二十二日附書翰ヲ以テ東

普魯西及「バヴァリア」ニ於ケル住民自衛団及之ニ類ス

ル其ノ他ノ團体ノ武装解除ヲ正式ニ拒絶シ且其ノ決意ノ重大ナルコトヲ自覺セル旨明ニ声明セリ

三、保安警察隊ノ武装解除ハ未タ完了シ居ラス

四、住民自衛団ノ解散ハ聯合国カ一九二〇年六月二十二日

附書翰ヲ以テ一九二〇年九月二十二日迄延期スルコトヲ

承諾シタルモノナルニ未タ之ヲ解散セス而シテ独逸政府

ハ此ノ解散ニ關シ期日ヲ通告セサルノミナラス監督委員

カ平和条約及六月二十二日附書翰ノ違背ト認メ独逸ヲ詰責シタルニ對シ聯合国政府及大使會議ニ哀願シ居ルニ過

キス

五、六月二十二日聯合国政府ハ「ヴェルサイユ」条約ニ遵

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七五六

九一八

ヒ独逸国ニ解隊ノ責アリトセル住民自衛團ノ編成ハ今尚ホ東普魯西及「バヴァリア」ニ存続セリ之レ平和条約百七十七条ノ違反ニシテ之等自衛團ハ又保安警察隊ト連絡ヲ保チ居レリ

六、平和条約軍事条項ニ適合セシムヘク独逸法律ヲ改ムル為ニ為サレタル最近ノ処置ハ甚タ不完全ニシテ独逸政府カ已ニ公布シタル法律及提出中ノ新法律案ハ監督委員ヨリ幾多ノ非難ヲ招キ居レリ

七、制限外ノ軍需品引渡ハ未タ完了セサルノミナラス独逸政府ハ監督委員ノ要求セル「キュストリン」及「ケーニッヒスベルグ」ノ砲兵用材料ノ引渡ヲ特ニ拒绝シ他方正規軍隊配置ノ個所ニ在ル軍需品ハ平和条約カ何等許容セサルニ拘ラス独逸ハ之ヲ保存センコトヲ要求シ居レリ

八、独逸軍隊ヲ十万人ニ減少スルコトハ実行セリト声明シ居レトモ(監督委員ハ未タ此ノ減員ヲ検証シ能ハサルモ)

他方独逸政府ハ旧来ノ軍隊解散ノ為平和条約ノ条項ニ反スル organisation de liquidation (軍隊解散ノ為ニ設クル臨時組織カ)ヲ維持シ居レルコト明ナリ

条約中ノ航空条項履行ニ関シテモ組織的ニ監督委員ノ命令

一九二〇年十二月廿一日巴里ニ於テ 「レーグ」

(附記)

大正九年十二月三十一日在本邦独国大使ヨリ内田外務大臣宛書

輸仮訳文

条約実施ニ関シ日本政府ノ援助方要請ノ件

訳文 第七一号

以書簡致啓上候陳者拙官ハ独逸国政府ガ平和条約ニ依リ課セラレタル責任履行ニ際シ如何ニ大ナル困難ニ遭逢致候儀ニ関シテハ過日來再三口頭又ハ書簡ヲ以テ陳述之采ヲ得其際独逸国ニ対シ要求セラレル東部国境武備低減及巴華里ニ存スル防禦團ノ解散ヨリ生スル危険ニ就キ御談話申上候件ノ外昨日我政府ヨリ猶緊急ノ電報到達致候就テハ歲末休暇中事務ノ御都合ヲ慮リ訳文添付該電文内容左之通り申上候独逸国ガ「スペー」議定書ノ規定ヲ履行シタルヤニ関シ同盟国際監督委員会ニ於テ報告ヲ提出スベキ時期近接セルト共ニ該監督委員中一方ハ独逸国ガ実行シタル程度ニ関シ異議ヲ申出デ他ノ一方ヨリハ一層嚴重ナル要求ヲ為シタリ「ノルレー」將軍ハ自衛團隊「キール」要塞ノ撤去及要塞

供セラルルニモ拘ラズ軍艦ノ用ニ供スベキ目的ヲ以テ製作シタル材料ノ全部ヲ破棄スベキ様強固ナル要求ヲ為シタリ拙官ハ我ガ政府ノ命ニ依リ茲ニ確言シ得ル如ク独逸国ハ「スペー」議定書中記載ノ要求ニ応スベク全力ヲ以テ尽瘁シ最近又要塞ノ武備ニ関シ大使會議ヨリ提出ノ要求ヲ正当ナラザルモノト確信セルニモ拘ラズ右ノ要求ニ応シ重大ナル犠牲ヲ出シタリ

独逸国ハ同盟国ニ對スル責任ヲ誠実ニ遵守スベキ意志ヲ有シツツアリ隨テ意想外ニ大ナル実行ハ英仏両國ノ新聞紙ノミナラズ聯合国政府當局者ヨリモ容認セラレ「タルヂュ」氏ノ如キモ輓近會議ニ於テ独逸国ハ今ヤ危険視セラレザル旨ノ意見ヲ発表シタリ

右ニ反シ同盟国國際監督委員会ノ行動ガ一朝独逸国民ノ知民ヨリ武器引上ヲ充分ナラズ主張シ軍需品引渡ノ不充実ナル点ニ関シ數度異議ヲ提出シタリ十二月二十三日付同将军最終ノ書簡中将军ハ新設警察隊ノ解散ヲ要求シタリ最近将軍「マステルマン」ハ航空飛行ニ関シ絶ヘズ强硬ノ度ヲ増セル要求ヲ為シ又「チャルトン」將軍ハ「ヂーゼル」發動機ヲ除ク外車艦ニ於テ使用シタルモノハ平和的使途ニ

ニ反抗シ居レルコト並「スペー」議定書ニ基キ一九二〇年八月卅一日ニ完了スヘキ航空材料ノ引渡及破壊ハ今尚ホ完了セサルコトモ亦茲ニ之ヲ指摘ス軍事監督委員ハ其ノ指摘ユ」条約「ブーローニュ」ノ公文及「スペー」議定書ニ基キ聯合国政府ノ採ラントスル処置ヲ累スルコトナク保安警察隊ノ不解散ハ今ヨリ之ヲ指摘シ置クヘク又仏国政府ハ一九二〇年十二月卅一日ニ於テモ平和条約ノ主ナル条項カ未タ履行セラレサルコト並独逸政府ハ一九二〇年七月九日「スペー」協定ヲ嚴守セサリシコトヲ検証スル義務ヲ有ス仏国政府ハ独逸政府カ嚴正ニ約定セル事項ヲ履行セサル事實ヲ今日ヨリ指摘シ置クヘシ右不履行ニ関シテハ聯合国政府ニ於テ審議スルコトアルヘシ

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七五六

九三〇

ハ委員ノ要求ニ応ジタルモノナリ然ルニ今ヤ前記委員会ニ於テハ更ニ新設ノ秩序警察ニ対シ治安警察ニ対スル同様ノ態度ヲ採ルベシトノ意見ヲ主張ス其理由タルヤ秩序警察ハ治安警察ヲ拡張スルモノニ外ナラズトノ立脚点ニアリテ反証トナルベキ独逸政府ノ説明ニ毫モ耳ヲ仮サズ而シテ該問題ニ関シ委員会ノ要求ニ服従スルハ不可能ノ事ニ属ス財産其ノ物ノ安全ヲ保ツコト能ハザレハナリ万一私有財産ヲ保護ヲ付セズシテ極端派ノ襲撃ニ委スル時ハ賠償ヲナスベキ独逸工業ノ能力ヲ絶滅シ平和条約ヲ履行スベキ独逸国政府ノ忠実ナル努力ノ効果ヲ危クスルモノナリ

独逸国政府ハ今日迄監督委員会ノ最後ノ書簡発表ヲ抑止シ置キタリ

若シ政府ニ於テ右ヲ発表セバ国民憤慨ノ増大ヲ來スノミナラズ今實行セントスル損害賠償ヲ目的トスル政府ノ措置ヲ困難又ハ場合ニ依リテハ不可能ニ至ラシムベシ

独逸国政府ハ聯合国ニ於テ監督委員会ヲシテ「ブリッセル」

ニ於テ執リツツアル政策ト不合ナルベキ政策ヲ執ラシメン

トスル意志ヲ有スルコトヲ認ムル能ハズ独逸国政府ニシテ右ノ決定ガ事実ナル旨聯合国政府ノ証認ヲ得ル限り前記最

後ノ書簡発表ヲ為スヲ要セザルベシ然ラザル時ハ独逸国民ハ実際的状勢ヲ秘シタルモノト責メラルノ危険ヨリ脱スルコト能ハス

前記監督委員会ノ態度ヨリ或ハ推察シ得ラルベキ处置ヲ聯合国政府ニ於テ執ルベキ意志ヲ有セサルコトヲ知得スルコトヲ得ルハ独逸国政府ノ最モ緊要トスル所ナリ
万ニ聯合国政府ニ於テ前頭ノ処置ヲ執ル場合独逸国ハ安然業務ニ從事シ平和条約ヨリ生スル政治上及經濟上ノ義務ヲ履行スルノ不可能ナルベキ怖アルベシ

拙官ハ貴政府ノ右件ニ関スル態度ニ就キ可成速ニ我政府ニ通電シ得候様閣下ノ御回答ニ接シ候ハバ大ニ欣幸トスル処ニ有之候此段御依頼芳茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

一千九百二十年十一月三十一日 独逸国大使 敬具

（附記三）

外務大臣伯爵 内田康哉閣下 ソルフ

（一月六日接受）

議ニ移サルルコトト信セラルルカ故其ノ場合ニハ上述ノ事情ヲ洞察セラレ独逸ニ対スル公平ナル見地ヨリ十分ノ好意的援助ヲ与ヘラレンコトヲ切望ス

七五七 一月五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

対独制裁ニ対スル英國政府ノ態度報告ノ件

第一号

在仏大使宛貴電第九六五号ニ関シ

（一月六日接受）

一月四日永井ヲシテ次官ニ就キ御訓令ノ趣旨ヲ体シ英國政
府ノ態度ヲ探ラシメタル処次官ハ英國政府ニ於テハ軍事監督委員報告ハ大使會議ニ對シ為サレタルモノニシテ先ツ同
會議ニ於テ之ヲ攻究スベク同會議ヲ差置キ最高會議ニ附ス
ベキモノニアラズトノ見解ヲ採リ既ニ在日及在伊大使ニ訓
令シテ任國政府ニ向ヒ夫々其ノ在仏使臣ニ右ノ方針支援ノ
訓令ヲ發センコトヲ申入レシメタルガ英國政府ノ本問題全般ニ関スル態度ハ未ダ之ヲ開示シ得ルノ域ニ達セズ而シテ
首相會議急速開催ノ要ハ切りニ仏國側ヨリ提唱セラルルモ
「ロイド、ジョージ」ハ目下内國ノ事情即時渡仏ヲ許サズ
本月下旬ニ至ラバ都合付クヘキ旨ヲ仏國政府ニ告げ目下其
軍関係ノ條約実施業務ニ屬スルヲ以テ自然陸軍當局ノ詮
「」大使外務省（日本）ヘ話出アル次第ナルカ事陸

一二 独逸国ノ対独平和条約違反ニ關スル件 七五七

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七五八 七五九

九三二

ノ回答ヲ待チ居ル次第ナリト語リ次デ永井ガ仏獨ノ間ニハ既ニ本件ニ関シ往復アリタル旨ノ新聞報道ヲ指摘スルヤ

(在仏大使発往電第一号ハ本会見後接続セリ) 次官ハ右ハ

事実ナルガ三十一日現状ヲ捉へ直ニ不履行ヲ責ムルハ果シテ妥当ナルベキヤ考量ヲ要スト答へ仏國ノ措置ニ不満ヲ懷クモノノ如ク見受ケラレタル由

各種情報ヲ綜合スルニ英國政府ニ於テハ独逸ハ軍備撤廃問題ニ関シ十分ノ尽力ヲ竭シ居ルモノト思考シ原則トシテハ「スペー」協定遵守ヲ交渉スルコト仏國ト同様ノ立場ニアリト雖尚ホ「ルール」占領ノ如キ極端手段ハ已ムヲ得ザル場合ニノミ之ニ懇フヘキモノニシテ今日之ヲ実行スルガ如キハ尚早ノ譏ヲ免カレズトノ意見ヲ有シ特ニ自衛團解散ノ点ニ付テハ幾分仏國政府ヨリモ寛大ノ見解ヲ保持スルモノノ如ク露國過激派侵迫ノ危険モ縱令独逸側ノ主張ニ幾分事態ヲ誇張シ居ルノ慮カリアルモ尚ホ相當好意的考量ヲ加フルコト然ルベシト考へ居ルモノノ如ク観測セラル

在歐米各大使ヘ転電セリ

七五八 一月六日 在仏國石井大使(ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)

且本月四日附私信ヲ以テ仏國首相ハ「ロイド、ジョージ」

ニ對シ独逸ノ武装解除問題審議ノ為一月七日巴里ニ会合セ

ムコトヲ提議シタル旨通知アリタリ右ハ或ハ貴電ニアル如ク大使會議ヲ指スモノカトモ思考セラル処兎ニ角最高會議若ハ大使會議ニ於テ本問題議セラル場合ニハ独逸ヲシテ條約及協定上ノ義務ヲ忠実ニ履行セシムルノ必要ナルハ勿論ナルモ本件ニ關スル帝國ノ立場ハ仏國ト幾分趣ヲ異ニシ寧ロ可成英國ト協調ノ態度ニ出ヅルヲ得策トスヘク殊ニ独逸ヲ追窮スルコト峻酷ニ失スルノ結果同國政治狀態ノ混亂ヲ招キ其ノ履行能力ヲ減退セシムルガ如キハ却テ我ニ取リテモ不利益ト思考セラルルニ付要スルニ独逸ノ義務履行ヲ確保スルヲ以テ本旨ト為シ場合ニ依リテハ右義務履行ニ相当ノ猶予期間ヲ認メ又不履行ニ對スル制裁トシテモ「ルール」地方占領ノ如キ最後ノ手段ハ力メテ之ヲ避け他ニ何等カ適當ナル解決方法ノ決定ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望ス貴官ハ右ノ含ニテ可然応酬セラレタシ

七六〇 一月八日 内田外務大臣(ヨリ)
在仏國石井大使宛(電報)

平和条約履行問題ニ關シ在本邦獨國大使ニ

一二 独國ノ対独平和条約違反ニ關スル件 七六〇

巴里最高會議ニ出席スベキ日本政府代表者決
定方稟請ノ件

(一月九日接受)

第一一號(至急) 仏國政府ハ一月五日附書翰ヲ以テ独逸武装解除問題及「ベルサイユ」條約「スペー」「プロトコル」実施ノ狀況考査ノ為メ一月十九日巴里ニ聯合國最高會議開催ノ旨ヲ通告シ該會議ニ帝國代表者ノ出席ヲ得バ仏國政府ノ欣幸トスル所ナル旨帝國政府ニ通報方依頼シ越セリ就テハ右ニ對シ至急回答ヲ要ス可キニ付同會議ニ出席ス可キ帝國代表者至急御決定ノ上回電ヲ請フ

在歐米各大使及在白公使ヘ転電セリ

七五九 一月七日 在仏國石井大使(ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)

平和条約及スペー協定ノ完全履行ヲ要求スル
対獨態度ニ關シ我方ノ措置振訓令ノ件

第九號(至急) 貴電第一号ニ關シ

在本邦仏國大使ヨリ貴電前段ト同趣旨ノ一月三日附書翰ニ添ヘ客年十一月三十日附對獨「ノート」ノ写ヲ送リ來リ

第一四號 本政府ノ態度説示ノ件
在本邦獨國大使ハ客年十二月三十一日附書翰ヲ以テ往電第九六五号ノ趣旨ヲ繰返シ尚独逸ニ於テ条約履行ニ努メツツアルハ聯合國政府ノ認ムル所ナルニ拘ラズ軍事監督委員ハ事毎ニ峻酷ナル要求ヲ為シツツアルコト殊ニ警察隊ニ関シ十一月二十三日附最終書翰ニ於テ新設ノ秩序警察(Ordnungspolizei)ハ治安警察(Sicherheitspolizei)ノ拡張ニ外ナラズトシテ其ノ撤廃ヲ要求シタルモ独逸側ニテハ到底之ヲ承服シ難キコト並独逸政府ハ右最終書翰ノ發表ヲ差控ヘ居ルモ若シ之ヲ發表スルニ於テハ民心ノ激昂ヲ招キ其ノ結果独逸政府ノ賠償履行ヲ不可能ナラシムヘク聯合諸國ハ「ブリュッセル」ニ於テ執リツツアル政策ト矛盾スル政策ヲ軍事監督委員ニ行ハシメザルベキヲ信スル旨ヲ述ヘ本問題ニ對スル日本政府ノ態度ヲ承知シタキ旨申出テタルニ付本大臣ノ見解ハ十二月二十七日会談ノ際獨國大使ニ開陳シタル通ニテ要スルニ帝國政府ハ平和条約履行ニ關シ聯合与國ト協議ヲ要スルハ勿論今回ノ問題ハ主トシテ独逸國大

照シ解決セラルヘキモノナルトコロ何分遠隔ノ地トテ実情

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七六一 七六二

九三四

ヲ詳ニセザルニ付在欧帝国代表者ニ於テ篤ト其ノ情勢ヲ考察シ且今回来示ノ趣旨ヲモ採酌シ慎重ナル考量ヲ加フル様電訓シ置キタル旨一月八日附ヲ以テ回答セリ

在欧米各大使ヘ転電アリタシ尚往電第九五八号及第九六五号モ参考トシテ在米大使ヘ転電セラレタシ

七六二 一月八日 内田外務大臣ヨリ
在本邦独国大使宛

独国ノ武装解除問題ニ関シ日本政府ノ態度回

答ノ件

欧二送第一号

独逸ノ武装解除問題ニ関スル件

内田外務大臣ヨリ
在仏國出淵臨時代理大使宛(電報)
独国ノ平和条約履行ニ関スル態度及情勢ニ付
報告方訓令ノ件
第三号
在仏大使宛往電第九六五号及第一四号ニ関シ
独逸側ニテハ出来得ル限り武装解除義務ノ履行ニ努メ來レ
ル旨ヲ主張シ居ル処今日迄ノ実績ニ微シ果シテ如何ナル程度迄其ノ誠意ヲ認ムヘキヤ將又右義務ノ履行ヲ厳重追窮スルニ於テハ果シテ独逸側ノ憂フル如ク政治状態ノ混乱ヲ招クノ虞アリヤ是等ノ点ニ関スル貴見電報アリ度ク尚本問題ニ關スル独逸情勢ノ変転ハ今後隨時電報アリタシ
右参考トシテ在欧米各大使ヘ転電アリタシ

化スル如キコトアラバ事態重大ナルヲ以テ実情ヲ精査シ同僚トモ協議ノ上慎重ニ考量スベキ旨在仏大使ニ訓令シタル旨答へ置キタリ
七六三 一月十日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)
聯合国最高會議ニ日本代表トシテ出席方指示
第一七号
貴電第一号ニ関シ
貴官ハ一月十九日巴里ニ開催セラルヘキ聯合国最高會議ニ
帝国代表トシテ出席セラルベシ尚右會議ニ於テ仏国政府來翰記載以外ノ問題議題トナル如キ模様アルトキハ可成早目ニ電報アリタシ
在欧米各大使及在白公使ヘ転電アリタシ
七六四 一月十日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)
和平条約及スパー協定ノ完全履行ニ起因スル
獨国ノ実情精査方訓令ノ件
第一八号
往来電第九号ニ關シ一月八日仏国大使來訪本件ニ關スル帝国政府ノ態度ヲ尋ねタルニ付本大臣ハ本件ニ関シテハ独逸大使ヨリ申出ノ次第モアリ万一千字引退シテ混乱状態ニ陥リ赤

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七六三 七六四

七六五

(附記) 米国ノ大使会議脱退ニ就テ(欧米局第二課調)

一、米国ノ大使会議脱退ノ理由トシテ在仏米国大使ノ言明スル所ハ從来米国カ大使会議ニ参列シタルハ休戦条約関係事項審議ノ為ナリシヲ以テ其重要ナルモノ既ニ略決定セラレタル今日同会議ヨリ脱退スルヲ時機ト認メタルニ依ル旨

ト為スニ在リ

然レ共右脱退ノ内情ニ至リテハ大統領「ウィルソン」氏カ後任者タル「ハーディング」氏ニ自由行動ヲ執ラシメント

ノ希望ヨリ出デタル政治的礼儀ナリト為ス者アルモ寧ロ從来「ウィルソン」氏ノ歐州問題干与ガ国内反対党乃至輿論ノ攻撃誹議ノ端ヲ為シタルニ鑑ミ退職ニ先チ其原因ヲ除却シ置カソカ為此挙ニ出テタルモノナルヤモ知ル可カラス

二、右脱退ノ結果トシテ米国ハ賠償委員会並ニ萊因河國際委員会ニハ依然非公式ニ参列ス可キモ其他ノ条約実施ニハ全然干与セサルコトナレリ然レ共今日迄米国カ問題ニ依リテハ「ヴェルサイユ」条約未批准ヲ理由トシテ参加ヲ拒ミ乍ラ船舶分配、海底電線処分等事苟クモ同國ノ實益ニ関スル場合ニハ參戰ヲ根拠トシテ之ニ干与シ來レルコト並ニスル非理矛盾ノ政策ニ對シテモ他ノ主要國ハ米國ノ國際的地位ニ鑑ミ敢テ抗議スルコト無ク之ヲ容認シ居ルコトハ留意セサル可カラサル事實ナリトス

三、今般米国カ大使會議ヲ脱退シタル以上歐州外ノ國家ニシテ歐州問題ニ干与スルハ独リ帝国アルノミナルヲ以テ勢ヒ歐州諸小國ノ嫉視ヲ免レ難ク現ニ過般ノ聯盟総会ニ於テ

第一三号（訂正）
（一月二十六日接受）
巴里出張ニ先チ一月十六日外務大臣ト会談ノ結果左ノ通り

一、先ツ本官ヨリ自衛團武装解除ノ困難ナル事情ハ充分之ヲ諒察スルモ右ハ「スペ」ニ於テ約束シタル事柄ナルヲ以テ独逸側ニ於テ最善ノ努力ヲ用イ之ヲ実行スル義務アル次第ナルカ中央政府地方政府共ニ困難ノ事情ヲ訴ヘ解除実行ノ時期ニ付大体ノ見込スラ言明セザルハ聯合側ヨリ決シテ同情ヲ以テ迎ヘラル所以ニアラザルベシ本官近ク巴里ニ赴クニ付貴大臣一個ノ意見ニテモ承知シタント述ベタル所「ジモンス」ハ貴説誠ニ尤モナリ實ハ最高會議開催前本問題ニ対スル独逸政府ノ態度ヲ決定シ置ク必要アリト認メ最近特ニ私信ヲ巴威利總理「カルル」ニ送リ結局ノ見込ヲ尋ねタルニ「カルル」ヨリ巴威利ノ実情ニ顧ミ遺憾乍ラ此際到底解除時期ヲ言明シ兼ヌル旨回答シ来リ斯ク手ヲ尽シテ尚要領ヲ得ザル以上中央政府トシテ如何トモ致シ方ナキニ付結局聯合側ヨリ「ジクテート」セラルルヲ待ツ外ナシト語リ尚本問題ニ付テハ中央地方トモニ寸毫モ他意ナク唯地方特殊ノ事情ニテ遲滞セラルル次第ニ付聯合側ヨリ充分ニ同情ヲ注カレ余リ短

モ既ニ其徵候顯然タルモノアリ此点ハ帝国政府ニ於テ今後歐州ノ政治問題ヲ處理スルニ當リ忽諸ニ付ス可カラサル所ナル可シ

四、最後ニ米國ノ脱退ニ乘シ或ハ白耳義カ大使會議其他重要ナル大国會議ニ割込運動ヲ試ミルニ至ルコト無キヤ警戒ヲ要スルモノアリ白國ハ大戰以来常ニ聯合与國ノ同情ヲ鍾メ已ニ大使ノ交換ヲナス等百方歐州大国ノ班ニ列セんコトニ腐心シ時ニ妬心ヲ以テ帝国ノ地位ヲ目スルコトアルノミナラズ同國ハ賠償委員会ノ参列權ニ閔シ帝国ト利害相反スルノ機微ナル關係アルヲ以テ将来同國ノ動靜ハ特ニ注目ヲ要スルモノアリ

五、尚独逸ハ米國ノ脱退ニ乘シ今後或ハ米國トノ接近ヲ計リ他ノ聯合國ヲ率制スル為條約実施ノ圈外ニ在ル國々ノ勢力ヲ利用スルコト無キヤ將又更ニ進シテ聯合側各國ノ離間ヲ劃スルカ如キコト無キヤ是亦警戒ヲ要スル所ナル可シ

七六六 一月二十一日 在獨國出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
自衛團解除時期及賠償問題ニ關スル獨国外務
大臣ノ談話報告ノ件

カラザル時期ヲ指定セラレンコトヲ切望スル旨熱心ニ申述ベタリ

二、次デ「ジモンス」ヨリ賠償問題ニ言及シ「ブルッセル」會議ノ際独逸専門家トノ間に意見ノ交換ヲナシタル結果独逸ノ支払能力ノ説明スルコトヲ得タルモ大体ノ空氣ニ依リ觀察スルニ聯合側ノ要求額ト独逸ノ支払能力トノ間ニ余リニ懸隔アルコト明瞭トナリタルニ付キ賠償問題ニ付聯合側トノ間ニ協定ヲ見ルコト殆ト見込ナク結局独逸トシテハ賠償額ノ協定ニ応ズルコトナク支払得ル丈ヲ支払ヒ行クト云フ消極的態度ヲトル外ナシト語リ（独逸ノ確信ヲ以テ支払ヒ得ザル金額ヲ強制セラルルカ如キコトトモナラバ自分ハ辞職スル覚悟ナリト述ベタリ）尤モ聯合側ニ於テ（）独逸人ノ私有財産ノ差押ヲ解除シ（）占領軍ノ費用ヲ輕減シ（）上部「シレジャ」問題ヲ独逸ニ有利ニ解決スル等独逸ノ経済力復興ヲ助クルカ如キ好意的態度ニ出デラルルニ於テハ自ラ賠償金額ニ付テモ話合ノ道アルベシト附言セリ

在欧米各大使へ転電セリ

七六七 一月二十五日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第一回巴里最高會議ノ議事経過報告ノ件

第九一號

(一月二十七日接受)

巴里最高會議議事概要

最高會議第一

一月二十四日午前十一時當国外務省時計ノ間ニ開催

各国全權左ノ通

仮、首相「ブリアン」(議長)、陸相「バルトー」、外務省
總務長官「ベルトロード」

英、首相「ロイド、ジョージ」、外相「カーボン」卿
伊、外相「スフォルザ」伯、在仏大使「ボニン」伯

日本、本使

議長ハ開会ヲ宣シタル後往電第九〇号ノ議題ニ關シ先づ軍
備制限問題ヨリ審議セントコトヲ提議シ各國全權之ニ同意ス
依テ「フォッシュ」元帥ハ往電第一号所報客年十二月三十
日附軍事會議ノ報告ノ大体ヲ説明シタル後該報告作製後ノ
情況ニ付テハ本月十八日附「ノレー」將軍ノ「ノート」モ
アリ旁々同將軍ノ意見ヲ聽取スルコト然ルベキヲ附言シタ
在歐米各大使ヘ転電セリ

ニ於テ自分ノ意見ヲ披瀝スベキモ仮ニ獨逸側ニ於テ約定通
り履行セザル場合「フォッシュ」元帥ハ如何ナル手段ニ訴
ヘテ之ヲ強要セラル積ナリヤヲ尋ネ「フォッシュ」元帥
ハ今指摘シ難キモ執ルベキ手段ハ種々アルベク何レニシテ
モ條約ノ違反ニ對シテハ之ヲ黙過スル能ハズトテ甚ダ言ヒ
渉リノ態ナリシニ「ロイド、ジョージ」氏ハ高笑シナガラ
其種々ノ手段ノ何タルヤヲ承知シタシトテ追窮シ「フォッ
シュ」元帥ハ已定ノ手段ノ如キハ其一ナリト答ヘタリ
午後引続キ本問題ヲ審議スルコトトシ一時散会セリ
在歐米各大使ヘ転電セリ

七六八 二月一日 在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武装解除賠償ニ關スル巴里最高會議ノ決議発

表二対スル獨國ノ反響報告ノ件

第二八號 (二月五日接受)

武装解除賠償ニ關シ二十九日巴里最高會議ノ決議ハ三十日
夜已ニ独逸政府ニ通達セラレタルカ同政府ハ翌三十一日一
方国会ニ於テ一応之ニ関シ報告ヲ為スト同時ニ他方其全文
ヲ發表シ且三十一日ヨリ一月一日ニ掛ケ大統領臨席ノ下ニ

一二 獨國ノ対獨平和條約違反ニ關スル件 七六八

ルニ「ロイド、ジョージ」氏ハ右「ノート」ハ英國陸軍省

ノ承知セザル處ナルヲ指摘シタリ之ニ對シ「バルトー」氏

ハ右ハ獨逸ハ誠意ヲ以テ條約履行ニ當リタリヤ否ヤニ關シ

ニシテ軍備制限問題ノ審議ニ参考トナル可キモノナリト答

ヘ議長モ亦本問題ハ仏國ノ生命安危ノ係ル處ナルヲ以テ單

純ナル数字ノミヲ基礎トシテ決定ヲ与フ可ラズ充分ナル說

明調書ヲ必要トスルヲ主張シタルニ「ロイド、ジョージ」

氏ハ獨逸ノ誠意ノ如キハ各人見解ヲ異ニシ其ノ一致ヲ見ル

コト困難ナリ故ニ吾人ハ事實ニ依リ数字ヲ基礎トシテ審議

スルノ外ナシ「ノレー」將軍ノ「ノート」モ此意味ニ於テ

嶄新ナル事實ヲ齎サザル限り其ノ説明ヲ聞クノ要ナシト述

ベタリ

之ニ於テ「フォッシュ」元帥、「ノレー」將軍、「ビンガ
ム」將軍在獨軍事監督分科委員會長ハ獨逸ノ内幕並其ノ
所有武器ニ關シ数字ヲ挙ゲテ現状ヲ説明シタルニ英將軍ガ
現ニ獨逸ニ残存スル見積レル兵器ノ數量仏元帥及少將ノ夫
レヨリ遙ニ少數ナリシ為メ英仏軍人間ニ多少議論ヲ交ヘタ
ルガ「ロイド、ジョージ」氏ハ右等情報ニ基キ午後ノ會議

數回ノ閣議ヲ開キ右決議ニ對スル政府ノ態度ヲ決定セリ而
シテ外相「ジモンス」ハ一日午前中政府ヲ代表シテ各政党
首領ト交渉スル處アリタルカ政府党タル国民党中王党及民
主党ハ全然政府ト同一ノ態度ニ出ツヘキコトヲ声明シタル
モ國粹国民党ハ一層強硬ニ聯合側ノ要求ヲ峻拒スヘキコト
ヲ主張シ多數派社会党ハ普國議會選舉ニ對スル党略上全然
政府ト同一ナラサル迄モ大体政府ト同一步調ニ出ツヘキ意
向ヲ示シ独立社会党賠償問題ニ關シテハ略ホ政府ヲ援助ス
ヘキ態度ヲ示シタル趣ナルヲ以テ国会ハ共產党ヲ除クノ外
極右党ヨリ左党ニ至ル迄本問題ニ關シ略ホ政府ヲ援助スヘ
キカ如ク外相ハ同日午後ノ国会ニ於テ大要別電第二九号ノ
通政府ノ態度ヲ声明シタリ尚各政党代表者ハ之ニ続キ各自
党ノ態度ヲ声明スル筈

将又一般輿論界ハ右最高會議ノ決議發表以來頗ル緊張シ拳
テ其賠償ニ關スル部分ヲ論議シ之ヲ以テ「ベルサイユ」条
約調印以来ノ大事件ト為シ聯合側要求カ予想以上ニ巨大ナ
ルヲ驚異ヲ以テ迎ヘツツアリ尚政府ニ於テハ或ハ外相辞職
説或ハ政府ノ基礎ヲ拡大スヘシトノ論等種々ノ風評流布セ
ラレ居ルモ多數派社会党等ノ入閣ニハ種々ノ困難アルモノ

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七六九 七七〇 七七一

九四〇

ノ如ク又一般ニ有為ナリト認識セラレツツアル現外相カ此
際直ニ辞職スルカ如キコトナキモノノ如シ

英、仏へ転電セリ

七六九 二月十六日 内田外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛

巴里最高會議ノ決議ニ基ク倫敦會議ヘノ代表者

トシテ在英林大使以下派遣ノ旨回答ノ件
和一送第三一号

以書翰致啓上候陳者本年二月十一日附貴翰ヲ以テ巴里最高
會議ノ決議ニ基ク倫敦會議ニ對シ帝国政府代表者専門家及
隨員派遣方ノ儀御申越相成致敬承候
同會議ニ對シテハ帝国政府ヨリ代表者トシテ駐英林大使ヲ
派遣可致尚其他ノ専門家等ヲ派遣スヘキモ其ノ氏名ハ追ツ
テ確定次第速ニ駐英帝国大使ヨリ直接貴國政府ニ對シ通報
可致候

右回答申越旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

七七〇 二月十七日 内田外務大臣ヨリ
在本邦石井大使宛（電報）

敬具

倫敦最高會議全般ニ亘リ所見ノ一端報告ノ件

第三五二号（極秘）

（三月十八日接受）

十一日「ブリアン」帰仏シ「ルシュール」「ベルトロー」「スマルザ」等出席、十二日午後會議ヲ以テ倫敦最高會議終了シタルカ會議全般ニ亘リ本使所見ノ一端ヲ述ヘムニ
一、賠償問題ニ就テハ「ブリアン」ハ当初仏國輿論ノ大勢及仏國財政ノ現状ニ鑑ミ巴里決定固守ノ覺悟ヲ以テ渡英シタルニ相違ナク會議中ニモ其ノ背水ノ陣ニ立テルコトヲ數次声明セリ之ニ反シ「ロイド、ジョージ」ハ英國通商上ノ利益將又国内労働党ノ感情ニ鑑ミ幾分独逸側ニ讓歩スルモ此ノ際賠償問題ニ一段落ヲ着ケ歐州全般ノ政治的經濟的不況狀態恢復ヲ速進スルノ道ヲ見出サムト決心シ居タルモノ

ト云フヘシ而シテ「シモンス」ノ立場ニ至リテハ自ラハ讓歩ノ必要且ツ有利ナルヲ知悉セサルニアラサルモ何分国内ノ實際勢力タル硬派ノ意向ニ庄セラレテ其ノ欲スルカ如キ成案ヲ得ルコト能ハス英國ノ態度ニ一縷ノ望ヲ繫キナカラモ已ムヲ得スムハ制裁ノ実行セラルコト却テ独逸ノ為メ喜フヘキ処ナリトノ考ヲモ有シタルカ如ク「ベルグマン」ノ如キハ窃ニ制裁ノ却テ歓迎スル処ナルヲ漏シタルコトアル趣ナリ

之ヲ會議ノ實際ニ見ルニ「ブリアン」性格穩和恬淡ニシテ主張ヲ固持スルノ執着乏シキカ為メ「ロイド、ジョージ」カ其ノ威信ヲ頼ミ縱横煥発ノ才氣ヲ弄シ隨時同盟側協調結束ノ必要ヲ高唱シテ仏國側ノ異論ヲ攻ムルニ会フヤ上「シレジヤ」問題、対獨暫定妥協交渉案等、讓歩ニ讓歩ヲ重ねタルカ偶々「シモンス」カ「スチンレス」一派ノ硬論ニ制セラレテ實ハ現今ノ事情ニ於テハ独逸ニ取り最モ有利ナル「ロイド、ジョージ」暫定妥協案ニスラ同意ヲ与フル能ハス交渉不調ニ終リテ遂ニ制裁実行ノ已ムナキニ立至リ然カモ之ニ独逸輸出品価額取立案ヲ加ヘタル結果トルニ「ブラン」ハ却テ其ノ本然ノ主張ヲ貫徹シ大成功ヲ担ヒテ帰國

最高會議ニ関スル仏國首相演説並政界ノ形勢
報告方訓令ノ件

第一六〇号

先月貴地開催ノ最高會議ニ關シ仏國首相ノ為セル声明又ハ演説並ニ之ニ對スル政界ノ形勢概要至急電報アレ

七七一 三月十七日 在英林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

倫敦最高會議全般ニ亘リ所見ノ一端報告ノ件

第三五二号（極秘）

（三月十八日接受）

十一日「ブリアン」帰仏シ「ルシュール」「ベルトロー」「スマルザ」等出席、十二日午後會議ヲ以テ倫敦最高會議終了シタルカ會議全般ニ亘リ本使所見ノ一端ヲ述ヘムニ
一、賠償問題ニ就テハ「ブリアン」ハ当初仏國輿論ノ大勢及仏國財政ノ現状ニ鑑ミ巴里決定固守ノ覺悟ヲ以テ渡英シタルニ相違ナク會議中ニモ其ノ背水ノ陣ニ立テルコトヲ數次声明セリ之ニ反シ「ロイド、ジョージ」ハ英國通商上ノ利益將又国内労働党ノ感情ニ鑑ミ幾分独逸側ニ讓歩スルモ此ノ際賠償問題ニ一段落ヲ着ケ歐州全般ノ政治的經濟的不況狀態恢復ヲ速進スルノ道ヲ見出サムト決心シ居タルモノ

スルノ成行キトナレリ約言スレハ「シモンス」ノ無力ハ則チ「ブリアン」ヲ救ヒ独逸ノ硬論ハ則チ英仏ノ提携ヲ深カラシメタルモノト云フコトヲ得ヘシ
翻テ「ロイド、ジョージ」ノ立場ヨリ之ヲ見レハ制裁ノ実行ハ其ノ實際ノ効力ノ疑ハシキ而已ナラス実ハ労働党ノ反感ヲ誘ヒ延ヒテ國內ニ難局ヲ釀スコトヲ恐レ出来得ル限り之ヲ回避セムコトヲ努メタルモノニシテ「ブリアン」ノ穏和ナル態度ニ依リ一度最後ノ瞬間ニ暫定的妥協案ヲ提出スルコトヲ得再ヒ七日正午ノ會議ニ於ケル対独談判不調宣言ヲ同日午後四時半迄延期スルコトヲ得以テ充分ニ妥協ノ誠意ヲ中外ニ表示スルノ機会アリタルハ対内政策上及対独政策上其ノ欲スル処ヲ遂ケ得タルモノニシテ「ロイド、ジョージ」カ「ブリアン」ノ態度ヲ徳トシ居ルコト言フ迄モナク會議ノ末期ニ及ヒ特ニ兩者応酬ノ一層打チ解ケ来レルヲ見受ケタリ

ルハ一方ニ自ラ幾分ノ疑心暗鬼ヲ包藏シタルニ依ルベキモ其ノ主タル目的ハ英國与論ニ對スル有利ナル反映ニ外ナラズ、將又五割取立案提出ノ眞意モ実ハ以テ賠償金ノ入手ト同時ニ独逸商品ノ輸入ニ障害ヲ加ヘテ国内失業問題解決ノ一助タラシメントスルノ底意アリタルモノト推測セラレザルニ非ズ、本案ハ其ノ由来スル處仮國荒廃地復旧費調達ノ為メ「セイドー」ノ立案セルモノヲ「ダバノン」ガ範囲ヲ拡張シテ「武」府會議ニ示シタルニアルガ専門家側ニハ相當ニ實行難ヲ見越シ少クモ其ノ長期ニ亘り効力ヲ維持シ難キコトヲ論ズルモノ少カラザルモ中ニハ案外實行ヲ見ル可ク或ハ独逸将来ノ提案ハ本案ヲ骨子トスルヤモ計ラレザルコト「シモンス」演説ノ一節ニ顧ルモアリ得ベキコトナリト見ルモノナキニ非ズ英國議会ニ於テハ多少ノ曲折ハ之アルモ本件法案ノ通過困難ナラズト觀測セラル

之ヲ要スルニ本件将来ノ發展ハ懸リテ制裁ノ効果及独逸ノ態度如何ニ在リ制裁ハ独逸ニ取り相当苦痛ナルニ相違ナキモ独逸ハ暫ク（脱）モ忍ビ難キ程度ノ痛棒ニ非ズ而シテ本月乃至四月初ニ於テ分明スベキ上「シレジア」所屬問題ハ独逸ノミ……態度決定上重大ナル要素ナルヲ以テ夫レ迄

ハ何レノ途今日ノ情況ヲ維持シ別段ノ進展ナク経過スルモノト見テ大過ナカル可シ然レトモ此ノ儘永ク本問題ヲ未解ノ状態ニ置クコト能ハザルハ勿論ナルニ付上「シレジア」ト思考セラル

二、對土條約問題ニ關シ「ロイド、ショージ」ガ從來ノ態度ヲ豹変シ條約改訂ニ同意シタルノミナラズ君府撤兵海峽軍備撤廃地帶縮少ノ提言ヲナスニ至ル原因ニ就テハ種々說ヲ立ツルモノアルモ要スルニ（「ヴェニゼロス」ノ失脚（II）印度ノ騷擾（III）占領軍駐屯並之ガ費用ニ對スル英國與論ノ反対（IV）「ケマリスト」ノ優勢ハ其ノ主要ナルモノニシテ此際速力ニ東方問題ヲ解決シ仏伊トノ協調ヲ固ムルト同時ニ土耳其ノ新勢力タル「ケマリスト」ニ對シ此ノ際相當ニ好感ヲ与フルコト旁得策ナルヲ看取シタルガ為ナル可シ人口問題ニ關スル「アンゴラ」代表ノ確信強ク其處述明晰ナルニ反シ希臘側ノ態度兔角煮エ切ラザルモ亦英首相ノ心証ヲ動カシタル一因ト云フモノ有リ兔ニ角事態ノ変転ニ顧ミ与國トノ結束ヲ計ルニ英首相今回ノ豹變ハ機敏ナル廻転策ト評スルコトヲ許可シ「アンゴラ」側ト關係深キ「スフォル

ザ」ハ今回最高會議提出ノ基礎ニテ遠カラズ解決ニ向フベキカト語リ居タルガ今日ハ土希双方ニ關係アルヲ以テ若シ事態ヲ其ノ推移ニ委スルハ「スマルナ」方面ハ戰禍ノ巷ト化シ而カモ「フォッシュ」宿論ノ如ク希臘軍ハ遂ニ大功ヲ収ムルノ実力ナク土耳古軍モ亦「ベキール」ノ誇唱ナルガ如ク敵ヲ席捲シ得ベキヤ疑問ナリ然ルニ東方ノ擾乱ハ延テ全歐ノ平和ヲ脅威スルノ虞多ク加之「パレスチン」「シリヤ」「メソボタミア」「アナトリア」方面ニ新ニ利權ヲ設定シタル諸同盟國ガ土希妥協ノ成立ニ百方尽力スベキコト自然ノ理ニシテ希臘側ニ於テハ「スマルナ」ニ於テ相当ノ面目ヲ保チ得ル限り妥協ヲ切望シ居ルコトニモアリ両三ヶ月ノ後ニ

ハ東方問題ノ解決其ノ緒ヲ示スニ至ル可キカト觀測セラル三、叙上ノ成行ナルヲ以テ遠カラズ賠償問題及東方問題ニ關シ再び最高會議開催ノ必要相生ズベキカト察セラル所

今回本使ノ経験ニ顧ミルニ會議ノ度毎ニ代表者ヲ变スルハ自ラ會議ニ対スル我態度ノ不熱誠ヲ示スノ嫌アルノミナラズ事實上ニ於テモ前後ノ連絡ニ遺憾ノ点少カラズ今回ハ石井大使聯盟理事ノ關係ヨリ事實上渡英ヲ請フコト不可能ナリシヲ以テ叙上ノ趣旨ヲモ含ミ松田參事官ノ來倫ヲ請ヒタ

スル聯合与國ノ協調ヲシテ益々鞏固ナラシムルニ尽力セリ
余ハ因ヨリ會議ノ結果ヲ以テ重大複雜ナル諸問題ヲ一氣ニ
解決シタリトハ思惟セズ然レトモ我ガ兵ガ英、白両國ノ兵
ト共ニ一ノ偶發的事件ヲモ惹起スルコト無ク「ライン」ノ
右岸ヲ占領スルニ至リタルハ敵味方ハ勿論世界ニ對シ重大
ナル影響ヲ与ヘタルヲ疑ハズ今回独逸ノ受ケタル懲罰的宣
告ハ軍事及ビ經濟兩方面ニ涉リ軍事ニ關シテハ仏國之レヲ
請求セリ經濟事項ハ二件ヨリ成リ一ハ巴里協定ノ當時既ニ
問題ト為リタルモノニテ独逸ト「ライン」地方トノ間ニ税
関線ヲ設置セントスルモノナリ他ノ一ハ今回英國ノ建議ニ
係リタルモノニシテ独逸ノ對外貿易ニ關ス本件ニ付英國ニ
テハ會議後直チニ法律案提出セラレ既ニ下院ノ協賛ヲ經我
ガ議會ニ於テモ同種ノ法律案提出セラレタリ而シテ經濟事
項ノ実施ニ付テハ多大ノ困難ナキニ非ザルモ仏國ハ常ニ英
國ト協調ヲ保ツ可シ云々

同氏ハ之レヨリ独逸資本家ノ帝國主義ヲ論難シ倫敦會議ニ
於テ仏國ノ為メニ好意ヲ示セル「ロイド、ジョージ」氏ヲ
賞揚セリ之レニ反シ独逸当局ノ誠意ナキヲ非難シ「シモン
ズ」博士ガ一八七一年仏國ノ「フランクフルト」条約ヲ余
國ト協調ヲ保ツ可シ云々

**最高會議決定ノ対独制裁ニ關シ独國ハ聯盟理
事会ニ對シ紛争解決ノ手段請求ノ件**

別電

三月二十四日在仏國石井大使発内田外務大臣宛電

右請求書

第四三八号

(三月二十五日接受)

最高會議ノ決定シタル制裁ニ對シ独逸ハ聯盟理事会ニ對シ
規約第一七条ニ依リ紛争解決ノ手段ヲ請求セリ右請求書ハ
事務總長ヨリ翻訳ノ上先づ各理事ニ配布シ次テ主聯盟国ニ
送レルガ其要領ハ往電第四三九号ノ通

本件ニ關シ仏国外務省ハ法律顧問ニ命ジ独逸ノ論点ヲ反駁
スル覺書ヲ作成セシメツツアリ出来上リ次第關係与國ノ贊
同ヲ求ムル筈ナリト「ベルトロー」氏本使ニ語リタリ

尚同氏ハ非聯盟国ガ理事会ニ訴ヘタル場合ニハ聯盟ノ一国
ガ理事会ニ於テ代理弁護ヲ要スル所瑞西、瑞典共右代理ヲ
拒メル為弁護ノ労ヲ執ルモノ無ク独逸ノ理事会ニ對スル訴
へハ實行不能ニ陷レリト附言セリ(尤モ右附言ハ本使ノ見
見ニ反スレドモ其儘聞キ律セリ)

在歐米各大使、在白公使ヘ転電セリ
見ニ反スレドモ其儘聞キ律セリ)

一二 独國ノ対独平和条約違反ニ關スル件 七七三

七七三 三月二十四日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

(別電)
三月二十四日在仏國石井大使発内田外務大臣宛電報第四三九号
獨國政府ノ聯盟理事会ニ對スル紛争解決方請求書

第四三九号 別電

(三月二十六日接受)

主タル同盟四國及白耳義ノ決定ニ依リ白英仏軍隊ハ「ヴェ
ルサイユ」條約ノ許シタル地域ヲ越ヘテ三ヶ所ヲ占領シ同
盟國政府ハ尚独逸品ニ對スル其國民ノ支払ヒ金ノ一部ヲ保
有スベキヲ宣言シ更ニ「ライン」占領地域ニ於テ特殊關稅
制ヲ敷カントス
此行為ハ「ヴェルサイユ」條約ニ反ス
同盟側ハ独逸ガ戰爭犯罪人「ヂスマーマメント」及ビ二百
億ノ第一回支払ニ關シ條約ニ違反シタルヲ以テ右处置ヲ條
約上正シキ制裁ナリト称シ而モ條約ノ何レノ点ニ違背シタ
ルカヲ示サズ

問題ノ条文ハ(一)第八編第二附屬第十八(二)第四二一九条ノ末項
(三)第四三〇条ノ内ニ限ラルベキ處之等箇条ノ何レモ「ライ
ン」河及ビ橋頭ノ西ニアル独逸領土ノ新占領ヲ許サズ(二)ハ
占領軍撤兵時期延長(三)ハ撤兵地域再占領ノ場合ニ限ラル(三)

一一 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 セセ

九四六

ハ独逸領土占領ノ理由タル能ハズ右ハ経済上及ビ金融上禁止及ビ報復其他一般ノ場合ニ限ラル蓋シ占領ハ条約遵守ヲ確保スルタメ最モ苛酷ナル手段ナルガ故ニ此手段ヲ執リ得ル場合ハ第四二九及ビ第四三〇条ヲ包含スル第一四編ニ特記セラル其適用ハ賠償義務ヲ守ラザル時ニ限ラル英國大蔵省ハ本年一月六日附公文（写ヲ添フ）ヲ以テ此旨ヲ確認セリ依テ本編ハ戦争犯罪又ハ「デスマーマント」ノ箇条違反ニ適用スベカラズ然ラバ独逸ハ賠償ニ関スル義務ヲ破りタルヤト云フニ斯ルコトナシ第二三五条ニ依ル「一百億ヲ現金又ハ物品ニテ支払フベキ時日ハ未ダ尽キズ独逸ノ計算ニ依レバ從来物品ニテ支払ヒタル高ハ既ニ規定ノ高ニ達セリ故ニ故意ニ履行ヲ怠リタル問題ハ存在セザルナリ

第二ノ制裁タル独逸貨物ノ壳儲ノ一部没収ハ第一八章不適用ニ関スル英白両政府ノ言明セル保障ニ反ス伊国政府モ亦同様ノ決定ヲナシ之ヲ我政府ニ通告セリ依テ此制裁ハ英白伊ノ関スル限り適用ナカルベキ筈ナリ

第三制裁タル特別税關ノ設置ハ懲罰的措置トシテ適用スベキニアラズ何トナレバ第二七〇条ヲ以テ斯ル措置ハ「ライン」地方人民ノ經濟的利益ヲ擁護スルタメ必要ノ場合ニ限

リ適用セラルベキコト規定セラルレバナリ一月四日独国首相ハスル措置ハ条約ノ規定ヲ超越スル旨ヲ下院ニテ認容セリ加之同盟側ハ独逸ヲシテ条約ヲ守ラシムル目的ヲ以テ本制裁ヲ執ルモノニアラズ彼等ハ惡意ヲ以テ其條約上承諾セル賠償ノ義務ヲ免レント努メツツアルガ故ニ力ヲ用ユルコトヲ公言ス即チ彼等ハ賠償義務ヲ尽ス方法ヲ示セル彼等ノ提議ニ服スベク独逸ヲ余儀ナクスルタメニ制裁ヲ加フルモノナルモ右提議ハ条約ト異レル規定ナレバ独逸ハ之ニ従フノ義務ナシ又同盟側ハ世界平和ヲ顧念シテ此決定ヲナセリト云フモ実ハ彼等ノ行動コソ平和ヲ破ルモノナリ

國際聯盟ハ國家間ノ關係ヲ正義ノ上ニ建テ条約ノ遵守ト世界平和ノ維持トヲ目的トス故ニ規約第一七条ニ於テ聯盟國ト外聯盟國間ノ紛争ヲ解決スベキ規定ヲ設ク独逸ハ此紛争解決ノタメニハ聯盟國タル義務ヲ受諾スル事ニ聯盟理事會ハ同盟側ガスベテノ平和手続ヲ尽サズシテ執リタル乱暴ナル制裁ヲ直ニ放棄セシムルタメ理事会ノ当然執ラザルベカラザル措置ヲ執ラレンコトヲ請フ

在歐米各大使、在白公使ヘ転電セリ

七七四 三月三十日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

獨國首相ヨリ聯盟理事会宛三月二十一日附
書ノ英訳報告ノ件

別電

三月三十一日在伊国落合大使発内田外務大臣宛電報第四七四号

英訳

倫敦最高會議ニ於ケル林及日置両大使ノ態度
二閻シ仏國大使談話ノ件

（四月一日接受）

第九六号 最近仏大使ト会談ノ際同大使ハ本使限リノ極内々ノ話ナリ

トテ倫敦最高會議ニ於テ日本大使林男ノ態度ガ事每ニ伊国ニ共鳴シテ仏國ノ立場ニ反対シ独逸ノ立場ニ都合好キモノアリタリ「ロイド、ショージ」ノ主張ニテ其説ハ通ラザリシニ付實際ノ結果ハ無カリシモ態度ハ頗ル Significant モノアリタリト聞クト述べ又在独日置大使ハ隨分「シャルマノファイル」ノ態度ナル趣ヤニ聞クト述べ居タリ尚當館情報者ノ内報ニ依ルニ數日前仏國大使ハ当国外務省總務長官ヲ訪問會談中倫敦會議事録ヲ読ミ或一節ニ達シタル處伊國政府ハ仏國ヲ裏切レルモノナリト不満ノ語氣ヲ洩シタル趣ナリ

セセ 日三月三十日 在伊国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

一一 独國ノ対独平和条約違反ニ関スル件 セセ

Troops of the Allied Powers after occupying Duisburg, Ruhrort and Düsseldorf, have advanced still further and have also occupied Walsum, Ratingen, Velbeck, Marxloh and Railway Station of Mulheim,

Speldorf and Oberhausenwest. It appears from the information received concerning the movements of troops that still further extension of occupation is contemplated.

The German Government protests against this further infraction of law and of treaty. It expresses hope that the method of settlement in conformity with the Articles 12 and 17 of the Covenant which has already been suggested by the German Government will be applied when measures adopted by the Allies.

Ishii.

ヤヤク 四月十四日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ルール占領ヲ決定セリト観察セラルル仏國ノ

強硬態度ニ關シ報告ノ件

（四月十六日接受）

ヤヤク 四月二十一日 在仏國石井大使宛（電報）
内田外務大臣ヨリ

対独問題ニ關シ聯合国最高會議開催ノ際日本

賠償問題ニ関スル首相ノ宣言ハ往電第五一一号ノ通ナル処

第五五七号

往電第四五一号ニ關シ

第五五七号

（四月十六日接受）

第五五七号

（四月十六日接受）

参加招請ニ付國交局ノ意向確カメ方訓令ノ件

第三七二一號（科急）

貴電第五七九号ニ關シ

本大臣宛在英大使來電第四〇二一號ニ拵レハ英國政府ニ於テ

モ對獨問題ニ關シ五月一日以前ニ何等カノ方法ニ依リ聯合

諸國間ニ意見ヲ交換スルノ必要ヲ認メ居リ尚新聞電報本月

二十三日英仏首相英國 Lympne リ会商シ伊太利及白耳義

モ招請セラレタル趣ヲ伝ニ居ル處賠償其ノ他對獨問題ニ關

シ聯合國最高會議ノ開催ヲ見ル場合ハ勿論非公式ノ協議行

ハルル場合ト雖帝國政府ニ對シ參加方招請アルヘキ筋合ナ

ルニ付今回ノ會議ニ際シテモ我方ニ案内アルベント期待セ

ラルモ若シ其辺ニ付御懸念モアラバ申ス迄モナキ儀ナガ

ラ為念可然仏國當局ノ意嚮ヲ確カメラレ議題等判明次第至

急電報アリタシ

本大臣訓令トシテ在英大使ヘ転電シ参考トシテ在伊獨及米

各大使、在白公使ヘ転電アリタシ

七七八 四月二十三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

諸般ノ情報ヲ総合スルニ仏國政府ハ國內人心ノ帰趣ヲ察シ
五月一日ニ至リ獨逸ガ一億馬克支払ノ義務（條約第一三三
五条）ヲ履行セザル場合ニ予備軍ノ一部（「クレス」）ヲ
動員シ「ルール」地方ヲ占領スルニ決定セルモノノ如シ
右ノ措置ニ對スル英國政府ノ意向如何ハ大ニ氣遣ハレ居ル
モ今回ハ英國ノ同意ヲ得ザル場合ニモ单独ノ責任ヲ以テ行
動スベシトノ説アリ蓋シ仏國ノ財政状態ハ近ク重税又ハ募
債ヲ行フノ止ムヲ得ザル状況ニアルト共ニ獨逸ノ態度ニ對
シテハ膺懲ノ必要ヲ論ズルモノ可ナリ多數ナルヲ以テ若シ
断乎タル態度ヲ示スニ非ザレバ「ブリアン」内閣ハ到底顧
覆ノ外ナカルベシト觀測セラレツツアリ

尚在米「ヴィヴィア」ハ政府ノ意ヲ受ケテ賠償問題ニ關
シ米國ノ了解ヲ得ル様極力奔走シツツアルモノノ如ク「ヤ
ップ」問題ニ關スル仏國ノ態度ガ兎角強硬ナラザルモ多少
其辺ノ事情ニ基ヅクモノナルベシ（十四日）

在歐米各大使ヘ転電セリ

第五五七号

（四月二十一日接受）

第五五七号

（四月二十一日接受）

対独問題ニ關スル聯合国最高會議開催ノ際日本

第五五七号

（四月二十一日接受）

第五五七号

（四月二十一日接受）

対独問題ニ關スル聯合国

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七八〇 七八一

九五〇

五一巴里ニテ開催ノ節ハ恰モ宮殿下御着英ノ間際ナルニ付往電第三五二号末段上申ニ拘ラズ石井大使ノミニ列席ヲ乞ハザルヲ得ザルニ付御含ミアリタシ
在欧米各大使ヘ転電セリ

七八〇 四月二十六日 在仏國石井大使
内田外務大臣宛（電報）

倫敦最高会議ニ問ニ合フ様林大使ニ詳細訓令

方裏請ノ件

第六二八号（至急）

（四月二十八日接受）

貴電第三七四号ニ関シ本問題ヲ先ツ以テ法律的ニ審査ス可シトノ英政府提案ニ対スル御同意ノ件及本件ハ帝國ニモ痛切ナル関係アルヲ以テ米國ニ対シテハ措置ヲ執ル前帝國政府ノ同意ヲ求ム可キ件拝承本件ニ関シ仏國政府ハ「ベルトロー」氏ガ曩ニ本使ニ語レル処ニ反シ往電第五八八号所報ノ如ク英國ニ対シ本件ヲ最高會議ノ權限ニ属ストナシ本件ヲ起草委員ノ審査ニ附スルニ異議ナキモ同委員ノ復命ニ依リ決定ヲトルハ矢張り最高會議ニ属スト主張ス其レガ為メ英大使ガ本件ヲ起草委員ニ附託スルヲ急グニ反シ去ル二十一日起草委員会ニ於テ「フロマジオ」ハ權限ヲ有セザル大

必要ト存ス

在英大使ヘ転電セリ

シトノ英政府提案ニ対スル御同意ノ件及本件ハ帝國ニモ痛切ナル関係アルヲ以テ米國ニ対シテハ措置ヲ執ル前帝國政

府ノ同意ヲ求ム可キ件拝承本件ニ関シ仏國政府ハ「ベルト

ロー」氏ガ曩ニ本使ニ語レル処ニ反シ往電第五八八号所報

ノ如ク英國ニ対シ本件ヲ最高會議ノ權限ニ属ストナシ本件

ヲ起草委員ノ審査ニ附スルニ異議ナキモ同委員ノ復命ニ依

リ決定ヲトルハ矢張り最高會議ニ属スト主張ス其レガ為メ

英大使ガ本件ヲ起草委員ニ附託スルヲ急グニ反シ去ル二十

二一日起草委員会ニ於テ「フロマジオ」ハ權限ヲ有セザル大

会議ニ問ニ合フ様詳細ノ訓令ヲ在英大使ニ与ヘラルコト

必要ト存ス

在英大使ヘ転電セリ

七八一 四月二十八日 在英國林大使宛（電報）

最高會議ニ於ケル賠償對独制裁其他ノ諸問題

二関スル日本ノ方針ニ付訓令ノ件

第二六一號（至急）

貴電第五一一号ニ關シ

来ルヘキ最高會議ニ於テ貴官ハ帝國政府從來ノ方針タル主要聯合國トノ協調ヲ旨トセラルト同時ニ主ナル議題タルヘク予想セラルル問題ニ關シテハ大体左ノ趣旨ニ依リ適宜

ノ案ハ果シテ充分所期ノ効果ヲ收メ得ヘキヤ疑ハシキノミナラス帝國トシテハ實際上右計画ノ実行ニ参加シ難キ地位ニアリ寧ロ獨逸トノ自由通商ヲ便トスヘシ乍併日本ヨリ進テ獨逸ノ利益ヲ計ルカ如キ態度ヲ示スコトハ不得策ナルニ依リ貴官ハ右ノ利害御含ノ上可成英國側ト密接ナル聯絡ヲ取リ同國ニシテ右占領及經濟的施設ノ仏國案ニ反対スル場合ニハ貴官ニ於テモ反対ノ態度ニ出テラレ若シ英伊等何レモ同意スル場合ニハ我方モ之ニ同意ヲ与フルコトトセラレタシ尤モ此ノ場合ニ於テハ「(一)右ハ獨逸ノ義務履行強制ノ為ニスル一時の措置タルコト」(二)何國カ其实行ノ局ニ當ルトスルモ其ノ聯合諸國ノ「トラステイ」トシテ聯合國全体ノ利益ノ為ニ行動スルモノナルコトノ了解ヲ明カニシ置クノ要アリト思考ス

二、対独制裁問題
獨逸側ノ賠償支払案カ不満足ナル場合其他條約上ノ義務履行ニ付独逸ノ誠意ヲ認メ難キ場合ニ聯合側ニ於テ條約上ノ権利行使ノ為必要ナル強制手段ヲ講スルノ已ムヲ得サルコトハ帝國政府ノ認ムル所ナルモ第一仏國政府ニ於テ計画中ナリト伝ヘラルル「ルール」地方占領拡張案ハ或ハ徒ラニ独逸ノ民心ヲ刺戟シ事態ノ安定ヲ遷延セシメ却テ賠償取立ノ目的ヲ妨ケ大局上不利益ヲ招クコトナキヤト懸念セラレ又占領地ニ於ケル經濟的施設ニ至テハ新聞電報ノ伝フルカ如ク同地方ノ工業及炭坑ヲ聯合國ノ管理ノ下ニ置キ又物資ノ徵發並石炭及輸出品ノ課税ヲ行フ

三、上部「シレジア」国境問題

本問題ニ關シテハ帝國ハ直接ノ利害關係ヲ有スル次第ニアラサルヲ以テ力メテ公平ナル立場ヲ保持スルヲ得策トスヘク從テ（一）人民投票ノ結果ヲ充分尊重シ溢リニ取捨ヲ加ヘサルト同時ニ（二）本問題ノ決定如何ハ獨逸ノ賠償能力ヲ左右スル所大ナルニ鑑ミ産業地方ノ帰属ヲ独

使會議ガ起草委員ニ附託ヲナス可キ理由ナシト述べ同日遂ニ本件議事ニ入ラザリシ由一方米政府ハ英政府ニ対シ本件回答ヲ督促セルヤノ暉アリ兎モ角次回最高會議ガ本件ヲ議セズシテ散会ス可キコトナル可ク其際帝國代表ガ訓令未達ノ故ヲ以テ本件ノ進行ヲ見ル能ハザル時ハ最高會議ノ不満足ヲ買フ可キノミナラズ一般公衆ノ感情ニ於テモ帝國ニ不利益ヲ來タス可キニ付來ル三十日多分倫敦ニ開カル可キ會議ニ問ニ合フ様詳細ノ訓令ヲ在英大使ニ与ヘラルコト必要ト存ス

在英大使ヘ転電セリ

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七八二

九五二

逸ノ利益ニ決定スルノ提案アルトキハ聯合諸国トノ協調ノ許ス限り之ニ賛同セラレ差支ナシ尙ホ対独制裁ノ一部トシテ本問題ヲ考量スルコトトナル場合ニハ懲罰的意味ヲ加ヘタル決定ヲナスヨリハ決定ヲ一時延期スルコトトナス方可ナルヘシト思考ス

四、希土戦争問題

本問題ニ関シテハ帝国ハ希土何レニ対シテモ特殊ノ関係ナク唯タ「セーブル」条約若クハ倫敦改訂案ノ確定実施ニ依リ速ニ近東政局ノ安定ヲ見且同方面ニ於ケル帝国ノ地歩確保セラルルニ至ランコトヲ庶幾スルト同時ニ亞細亞大陸ニ分布セル回教徒ノ感触ヲ害スルカ如キ措置ニ参

加スルコトハ力メテ之ヲ避ケンコトヲ欲スルノミ将又希土間現在ノ戦闘状態ヲ如何ニ取扱フヘキヤニ関シテハ聯合諸国カ土國ト休戦状態ニアル事態ニ鑑ミ希臘ハ自己ノ責任ニ於テ土國ト争ヘルモノト解スルノ外ナク從テ希臘カ聯合国ノ提示スル解決案ヲ無視シスル状態ノ繼續ヲ欲スル場合ニ於テハ（一）土國ニ対スル戦争ヲ明白ニ宣言セシメ以テ平明丸事件ノ如キ第三國ノ迷惑トナルヘキ出来事ノ発生ヲ防ケノ途ヲ講シ且（二）希臘ノ対土平和条約ノ発生ヲ防ケノ途ヲ講シ且（二）希臘ノ対土平和条

結果四二四票対一九票ノ大多数ヲ以テ首相ノ申出ヲ可決シタリ

七八三 四月三十日 在仏國石井大臣宛（電報）

ルール占領ニ関スル仏國輿論ノ大勢報告ノ件

第六六一號 （五月二日接受）

三十日倫敦開催ノ最高會議ノ状勢ニ関シ仏國輿論ノ大勢ハ「ルール」占領ヲ以テ避ク可ラズトシ最高會議ノ討論ハ單ニ占領日ノ問題ヲ決定スルニ過ギザルモノト見做シ「ブリアン」ノ強硬ナル政策ヲ支持スルニ一致セリ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ

一、往電第六二一號「ハイス」ノ決定ニ基キ英仏専門委員ハ二十九日迄ニ三回倫敦ニ会合協議シタルモ未ダ意見ノ一
致ヲ見ルニ至ラズ英國ハ「ルール」占領ノ経済的（脱）ニ付テ仏國ト反対ノ見解ヲ捨テズ

二、英國ハ一月ノ巴里協定ヲ討論ノ基礎トシ往電第六四六号末段一週間ヲ期限トスル意図ナリト伝ヘラレ仏國ハ巴里協定ハ独逸ノ拒絶ニ依リ消滅セルヲ以テ条約所定ノ賠償委員会ノ推算ヲ基礎トス可キコト並右最後通牒案ニ反対ノ意

約上ノ地位ニ関シテハ他ノ聯合国ニ於テ責任ヲ執り難キコトヲ明カナラシメ置クコト必要ト思考ス尤モ利害關係比較的少キ日本ヨリ進テ斯ル提議ヲナスニハ及ハサルモ他国ヨリ此種ノ意見出ツル場合ニハ之ヲ支持セラレタシ右訓令トシテ在仏大使ニ転電シ参考トシテ在米伊独各大使、在白公使並在土内田公使ヘ転電アリタシ

七八二 四月二十八日 在仏國石井大臣宛（電報）
内田外務大臣宛（電報）

独國ノ賠償不履行ニ対スル制裁措置ニ付下院ニ於テブリアン陳述ノ件

第六四八號 （四月三十日接受）

「ブリアン」ハ四月二十六日 Hythe 会見ノ結果ヲ下院ニ報告スルト共ニ仏國政府ノ態度ヲ鮮明シ倫敦ニ開カルベキ最高會議ノ結果此上独逸ニ於テ賠償不履行ノ態度ニ出ヅル場合ハ軍事的行動ニ依リ「ルール」地方ヲ占領スベキ決意ヲ述べ此点ニ関シ英國政府トノ間ニ十分ナル了解アル旨ヲ仄カシタリ右「ブリアン」ノ演説ニ対シ「タルディユー」氏ハ即時ニ外交方針ニ関スル討議ヲ開始センコトヲ請求シタルモ首相ハ今ハ其時期ニ非ズトテ討論延期ヲ求メ投票ノ

リ

三、条約第二三五条ニ依リ独逸ノ支払未済ナル百二十億馬克ハ今後ノ賠償支払金額中ニ包含スペキモノナリヤ否ヤニ付英仏ノ間ニ意見ノ相違アリ

四、「ルール」占領ハ賠償未払ニ対スル制裁タルノミナラズ其他ノ条約違反ニ付テモ制裁ノ方法タルベキコト仏、白ノ意図ナルモ英國ガ此見解ヲ承認スルヤ否ヤ不明ナリ

五、仏國議会ノ一部ニハ賠償委員会ノ査定セル千三百二十億馬克ノ金額ヲ以テ甚シキ仏國ノ讓歩ナリトシ攻撃ヲ加フルモノアリ

在英、米、独大使ヘ転電シ在伊大使、在白公使ヘ郵送セリ

七八四 四月三十日 在英國林大臣宛（電報）

ルール占領ニ關シロイド、ジョージ仏國ノ意
向ニ反対ノ件

（五月一日接受）

一二 独國ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七八三 七八四

九五三

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ闕スル件 七八五 七八六

九五四

ン」ヨリ独逸ノ条約義務不履行ノ為苦境ニ陥レル次第ヲ續述シ「ルール」占領ノ無已ニ到レルヲ認ムルヲ以テ會議ノ支援ヲ求ムル旨ヲ述ヘタルニ「ロイド、ジョージ」ハ仏國ノ立場（脱）賠償総額ノ通告後數日ヲ出デザルニ独逸国内ニ兵ヲ進ムルハ條約ニ違反スルモノニシテ英國ハ之ニ賛成スル能ハズト断言シタルニ「ブリアン」ハ斯テハ自分ハ辞職ノ外無シトテ強硬ノ態度ニ出デタルモ結局再考ノ上明日解決スルコトトシ一方財政専門家ノ会合ヲ催フシテ更ニ賠償支払方法並保証方法ヲ考究セシムルコトニ決セリ委細追テ御電報スルモ右不取敢

七八五 五月一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最高會議ニ於テルール占領竝賠償支払方法及 其保証ニ闕スル獨國ヘノ通告ヲ決議ノ件

（五月四日接受）

「ヴェルサイユ」条約調印以来同盟側ニ於テ讓歩ヲ重ネタルニ係ラス又「スペー」巴里ノ決定及最近倫敦會議ノ制裁アリタルニ係ラス独逸政府ハ軍備撤廃戦争犯人制裁及百二十億金貨馬克仕払ノ不履行アルヲ以テ最高會議ハ

七八六 五月二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最後通牒案ヲ討議大体決定ニ至ル迄ノ経過報

告ノ件

別電 五月三日在英國林大使発内田外務大臣宛電報第五四六号
右最後通牒案ノ訳文

（五月五日接受）

最高會議（脱）起草委員会起草ノ最後通牒案ヲ討議ス「カ

「ゾン」ハ右案文ニ「仏白両國陸軍ハ即時召集集中ヲ為ス可シ」ト記シタル理由ヲ説明シ右ハ（一）仏白両國ニ於テ斯カル措置ヲ希望セラルルモ（二）英國ニテハ目下坑夫罷業ノ関係上予備兵ヲ召集シ居ル處共産主義者一派ハ之ヲ「ルール」

占領ノ準備ニ外ナラズトノ宣伝ヲ行ハントシ居ル折柄、特ニ之ニ備フルノ要アルガ為ナリト述ベタルガ「ブリアン」ハ同盟諸国間完全ノ協調アルヲ示スコト必要ナルニ付仏白ノミヲ特記スルノ不可ナルヲ主張シ斯クシテ右三國ヲ明記セズ而カモ英國側ノ懸念ヲ避ケルノ形式ヲ案出セリ（十二時半）

（第四回）

之ニ於テ一同直ニ首相邸ニ赴キ英首相英内閣員及財政専門家ト会合シテ最高會議ニ移り起草委員決定ノ通牒案ヲ審議ス

ス英首相ハ特ニ「ルール」占領ハ独逸ガ本通牒ニ從ハザル期間ノミ之ヲ行フ可キコトヲ明記スルヲ要スト主張シ第五

四六号ノ通り大体通牒案ヲ決定セリ但右案ノ最終決定ハ財政委員ノ提出スベキ賠償案ヲ見タル上ニテ之ヲ与フルコトトナリ財政委員ハ更ニ三時半会合シテ審議ヲ重ネ最高會議

ハ五時ヨリ首相邸ニ開催ノコトトナリ
ハ五時ヨリ首相邸ニ開催ノコトトナリ

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ闕スル件 七八六

（一）「ルール」地方ヲ占領シ其他必要ノ軍事行動ヲ執ルコト而シテ之力為メ今日直ニ兵ノ召集集中ヲ行フコト

（二）賠償委員ヲシテ直ニ条約第二三三条ニ基キ賠償支払方法及其保証ヲ決定セシメ之ヲ五月四日迄ニ独逸政府ニ通知スルコトヲ決議ス

之等ノ措置ハ独逸カ五月八日迄ニ（イ）賠償委員会ノ決定（II）軍備撤廃ニ闕スル軍事委員会ノ決定及（III）賠償委員会ノ要求スル保証ニ付無留保条件ニテ全然承諾ヲ与フルニアラスンハ中止セラレサルモノトス

在欧米各大使、在白公使ヘ転電セリ

七八五 五月二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最高會議ニ於テルール占領竝賠償支払方法及 其保証ニ闕スル獨國ヘノ通告ヲ決議ノ件

（五月四日接受）

「ヴェルサイユ」条約調印以来同盟側ニ於テ讓歩ヲ重ネタルニ係ラス又「スペー」巴里ノ決定及最近倫敦會議ノ制裁アリタルニ係ラス独逸政府ハ軍備撤廃戦争犯人制裁及百二十億金貨馬克仕払ノ不履行アルヲ以テ最高會議ハ

七八六 五月二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最後通牒案ヲ討議大体決定ニ至ル迄ノ経過報

告ノ件

別電 五月三日在英國林大使発内田外務大臣宛電報第五四六号
右最後通牒案ノ訳文

（五月五日接受）

最高會議（脱）起草委員会起草ノ最後通牒案ヲ討議ス「カ

（第五回）

英国内閣諸員財政委員モ参加シ財政委員提出ノ賠償案ヲ考究ス一方法律上右賠償案ガ全然条約ノ範囲内ニ在ルコトヲ必要トストノ英首相ノ主張ニ基キ起草（法律）委員ノ意見ヲ徵スルコトトシ他方原案ニ逐条考究ヲ加ヘ支払保障徵收方法等ニ関シ英仏白間激論ヲ重ネタルガ八時半頃ニ至リ漸く大体意見纏り來リタルモ尚英首相ノ主張ニ依リ本賠償案ハ将来ニ重要ナル文書ナル可キヲ以テ深思熟慮ヲ加ウルコト然ル可キニ付文案ノ最終決定ハ明三日ニ讓ルコトトシ更ニ「ブリアン」ノ強硬ナル主張ニ依リ仏白側ハ鬼ニ角今タ中ニ動員ヲ開始スルコトニ決シ九時散会

在歐米各大使及在白公使ヘ転電セリ

（別電）
五月三日在英國林大使発内田外務大臣宛電報第五四六号
最後通牒案ノ訳文

第五四六号（秘）（訳文）
（五月五日接受）

九五五

一一 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七八七

五六六

及「スペー」名會議協定ニ警告及制裁ノ実行並ニ倫敦ニ於テ声明シ其後実行シタル制裁ニ拘ラズ独逸政府ハ「ヴェルサイユ」条約ニ依リ負担スル

(丁)武装解除ノ義務

〔1〕条約第一三五条ニ基ツキ一九二一年五月一日ヲ期限トシ賠償委員会ガ既ニ同日履行方ヲ促セル賠償金支払ノ義務

〔2〕尚一九二〇年二月十三日及五月七日附聯合国側公文ニテ指定セル戦争犯罪人ノ審理義務及

〔3〕其他重要ナル義務特ニ条約第二七三条、第三二二一条、第三二二二条及第三二七条ニ依ル義務

ノ履行ニ対シ其態度尚不定ナルニ鑑ミ左ノ如ク決議ンタリ

〔a〕本文文dノ事態発生ノ際「ライン」地方ニ於ケル聯合軍ヲシテ「ルール」谿谷占領ニ必要ナル準備ヲナサシム

〔b〕条約第二三三条ニ基ツキ賠償委員会ニ対シ独逸政府ノ負担スベキ一切ノ義務ヲ保証及履行スベキ時期方法ヲ遲滞ナク同政府ニ指定スベキヲ要求シ且ツ此点ニ関スル同委員会ノ決定ハ遅クモ五月六日迄ニ独逸政府ニ通告セシム

〔c〕独逸ニ対シ前項決定受領ノ日ヨリ六日以内ニ左ノ事項ニ関シ明確ニ其決意ヲ声明スベキヲ求ム

〔丁〕賠償委員会ノ決定スル条約上ノ義務ヲ留保又ハ条件ヲ附セズ履行スルコト

〔1〕同日聯合各國政府ニ請求セル債務履行ノ保証ヲ留保又ハ遲滞ナク受諾スルコト

〔2〕聯合各國政府ガ一九二一年一月二十九日附公文ヲ以テ独逸政府ニ通告シタル陸海空軍ノ武装解除ヲ留保又ハ遲滞ナク履行スルコト但シ期限ヲ経過シタルモノハ即時ニ其他ハ所定ノ期日迄ニ履行スルコト

〔3〕戦争犯罪人ノ審理及本文冒頭ニ於テ指摘シタル未履行ニ係ル他ノ条約上ノ義務ヲ留保又ハ遲滞ナク履行スルコト

〔4〕戰争犯罪人ノ審理及本文冒頭ニ於テ指摘シタル未履行ニ係ル他ノ条約上ノ義務ヲ留保又ハ遲滞ナク履行スルコト

〔d〕独逸政府ガ前述ノ各条件ヲ五月十二日迄ニ履行セザルトキハ「ルール」谿谷占領ヲ進行セシメ之ニ必要ナル陸海軍ノ軍事行動ヲ執ルベシ斯ル占領ハ独逸ガC項ニ其大綱ヲ掲ゲタル各条件ヲ遵守スルニ至ル迄之ヲ継続ス

在歐米各大使及在白公使ヘ転電セリ

七八七 五月三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國ノ同盟側會議參加其他ニ招請方決定ノ件

第五五〇号

(五月五日接受)

三日午前最高會議ニ於テ米國政府ニ対シ今後開催セラルベキ同盟側會議ニ参加スル事及不取敢大使會議及賠償委員会ニ其ノ代表者ヲ出ス事ヲ招請スルニ決セリ委細追テ電報ス在歐米各大使及在白公使ヘ転電セリ

七八八 五月六日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

最後通牒案文ニ各全権署名ニ至ル迄ノ經緯報

廿ノ牛

第五六四号

(五月八日接受)

最高會議(第八回四日)四日前中ハ賠償委員会ニ於テ最高會議案ヲ審査シ其結果ヲ見テ午後会合スルコトニ定メラレタルモ同委員会審議長ビキ九時半ヨリ会議ヲ開ク賠償委員会ハ遂ニ最高會議案ヲ殆ド其儘同委員会案トシテ採用シ

之ト条約トノ調和ヲ計ル為メニ条約第八編附属第一ニ修正ヲ加フルコトトナリ「ルーンヨール」ヨリ大体ノ説明ヲナシタルモノナリトナリ「ロイド、ジョージ」ハ

シ条約第一三四条ニ適用ヲ受クル為ニ自動的ノ指數ヲ決定シタルモノナリト述ベタルニ対シ「ロイド、ジョージ」ハ同条約ノ変更ヲ許スベカラズト反対シ「ルーンヨール」頻

第九回五日朝十時參集昨夜委員確定ノ条約第八編附属書第二ノ修正(別電第五六五号)ニ署名シ賠償支払案(別電第五六六号)ヲ承認シタリ右支払案ハ賠償委員会帰巴ノ上独逸代表者ヲ招致交附ノ筈ナリ

猶ホ支払案確定案中ニ「スペー」協定ニ基キ証券ヲ分配スベキ条項ヲ削除セルハ是レ蓋シ聯合国内部ノコトニシテ独

一一 独国ノ対独平和条約違反ニ闕スル件 七八九

九五八

逸ニ提示ノ案文中ニ規定ノ要ナキヲ以テナルカ今回決定ノ支払方法ハ「スパー」協定ニ予見セルモノト異ルヲ以テ両者調和ヲ（脱）殊ニ白国優先権ノ問題アルヲ以テ「チニニス」ヨリ此ノ点ヲ審査セムコトヲ提議シ更ニ財政専門家ノ為メニ何等協定ヲ遂クル筈ニテ五日午後ヨリ其ノ会合ヲ開クコトトナレルカ最高会議ハ朝ノ会合ヲ以テ結了仏伊全權ハ帰國ノ途ニ就ケリ

（猶ホ別電第五六五号及第五六六号ハ其ノ八ヨリ其ノ一ニ及其ノ四ヨリ其ノ一ノ順序ニ逆ニ解説アリタシ五日夜尚ホ會議詳細ノ経過ハ本省ニ追電ス）

別電共在欧米各大使並在白公使ヘ転電セリ

七八九 五月十日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

対独最後通牒ニ關スル獨国ノ政状報告ノ件

第一一二〇号 （五月十一日接受）

最後通牒ニ対スル独逸ノ政状大要

一、曩ニ独逸カ巴里決定ノ通牒ヲ受ケ次テ倫敦ニ於テ其ノ提案聯合側ノ峻拒スル處トナルヤ當時國論大ニ沸騰シ盛

ニ聯合側殊ニ仏國ノ態度ヲ非難シ挙国一致強硬ナル態

度ヲ示シタルニ拘ラス今回最後ノ通牒ニ接スルヤ極右党タル國粹国民党ニ於テ國家ノ威信上絶対ニ之ヲ拒絶スヘシト逸早ク高唱シタルカ右外国内一般ニ急激ナル言論ヲ避ケ諸政党其ノ内外ニ對スル利害關係上容易ニ態度ヲ明カニセス終局ノ形勢如何ハ何人モ確信ヲ以テ判断シ得サル状況ナリシ処九日深更ニ至ル迄国会ニ於テ諸党派名々熟議ヲ凝シ他面同日總理外相等各派代表者ヲ集メ最後通牒ノ内容ニ就キ説明ヲ与ヘ速ニ応諾スルコトノ得策ナルヲ慾憑シタルカ為メ追々各派ノ態度定マルニ至リ十日午前迄ノ形勢ニテハ國粹国民党ハ一致ヲ以テ国民党ハ大多数ヲ以テ民主党ハ僅カニ一票ノ差ヲ以テ孰レモ拒絕ニ決シ多數派社会党及独立社会党ハ一致ヲ以テ応諾ニ決シ中央党モ大數應諾ニ傾キツツアリ右様ノ次第ナルヲ以テ意外ノ發展ヲ見サル限り只今ノ处国民党両派ヲ除キ中央党ヨリ極端左党ニ至ル迄ハ大体応諾ニ決シ結局国会ニ於テ多數ヲ制スルニ至ルヘシト観察セラル

一、大勢前記ノ如クナル處応諾派ト雖モ今回ノ最後通牒ヲ以テ不能ヲ強フルモノト認メ居ルハ勿論此ノ際是ヲ応諾スルモ仏國ノ方針ハ元來賠償其ノモノヨリモ寧ロ其ノ他

獨国大使ハ同国政府ガ同盟國ノ最後通牒ヲ受

諾スル旨ノ通牒ヲ英國首相二手交ノ件

別 電 五月十一日在英國林大使堯内田外務大臣宛電報第

六〇一號
右獨国大使ノ通牒

（五月十五日接受）

第六〇〇号
十一日午後四時三十分白、伊、仏大使及本使需メニ応ジ

「カーソン」卿ヲ往訪セル處十一日午前十一時独逸大使ハ政府ノ命ニ依リ最高會議ノ議長タル英國首相ニ面会シ本月五日附同盟國ノ通牒ニ対シ独逸政府ハ何等保留ナク全然之ヲ甘受スル旨ノ公文ヲ手交シ之ヲ同盟國政府ニ通ゼラレムコトヲ求メタル趣ニテ「カーソン」卿ハ別電第六〇一號ノ通牒写ヲ手交セリ（十一日）

別電ト共ニ各大使及在白公使ヘ転電セリ

独国国会最後通牒応諾決議ノ件

第一一二一號 （五月十一日接受）

五月十日 独逸国会ハ最後通牒ヲ応諾スルコトニ決議セリ
在歐米各大使及在白公使ニ転電セリ

（別 電）

五月十一日林大使堯内田外務大臣宛電報第六〇一號
同盟國ノ最後通牒ヲ受諾スル旨ノ独国大使ノ通牒

第六〇一號

Mr. Prime Minister,

In accordance with the instructions just received

七九一 五月十一日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

一一 独国ノ対独平和条約違反ニ闕スル件 七九〇 七九一

九五九

I am commanded by my government in accordance with the decision of the "Reichstag" and with reference to the resolution of the Allied Powers of the fifth of May 1921 in the name of its new German

Government to declare as desired, the following:

The German Government is resolved (1) to carry out, without reserve or condition, their obligations as defined by the Reparation Commission.

(2) to accept and to carry out, without reserve or condition, the guarantees in respect of those obligations prescribed by the Reparation Commission.

(3) to carry out, without reserve or delay, the measures of the military, naval and aerial disarmament notified to the German Government by the Allied Powers in their note of January 29th 1921, those overdue being completed at once and the remainder by the prescribed dates.

(4) to carry out, without reserve or delay, the trial of war criminals and to execute other unfulfilled por-

tions of the Treaty referred to in its first paragraph of the Note of the Allied Governments of the fifth of May.

I ask the Allied Powers to take note immediately of this Declaration etc., etc.

(signed) Sthamer

Hayashi.

ヤル 五月十一日 在英國林大使
内田外務大臣宛 (電報)

对独制裁問題に關する最高會議ノ議事原則

始ヒサト

第六〇五節 (五月十五日接収)

最高會議第四 (五月二十一日午前)

出席者二日午後ノ通

(石井大使ハ二日午後ノ會議より出席)

外ニ各國軍事代表者參加

〔米國招請問題〕

「ハヤシ」ノ入場少シク後レタルヲ以テ其ノ機ヲ利用シテ米國招請問題ヲ議スル事トナリ議長ヨリ「カーノ

ハ」ハ説明ヲ促ス「カーノ」ハ本件ハ闇シ一箇ノ問題アリ

ハ米國ガ如何ナル程度迄同盟側會議ニ参加スルノ意向向アルヤノ問題ニシテハ如何ナル方法ニ依リ會議從來ノ決定ヲ通告スミキヤ

ハ問題ナルガ米國ガ対獨問題解決ニ参加ヤンシテノ意向ヲ有スルハ顧ミ公式ノ招請ヲ最高會議ヨリ發スル事然ル可ク同時ニ今回ノ會議ノ経過ヲ報告スル事トスベク尚ホ独逸ノ最近対米提案ヨリ獨逸ハ米國ノ指令ヲ従フ血ヲ公體セルニ依リ米國ヲシテ獨逸ニ同盟側要求受諾方ヲ勧告ヤシマル事モ一案ナルベシト述ブルヤ「アリアン」ハ之ニ同ジ現下ノ時局ニ対シ米國ガ深入セザル態度ヲ持セル事ハ同盟諸國ノ等シク多トスル所ニシテ其ノ血中入ル事必要ナルベキガ之ハ各國政府別々ニ行フ事トシ會議參加招請ハ総括的ニ行フ事然ルベシ然レニ米國ヲ通ハシテ獨逸ニ圧迫ヲ加フルノ意見ニハ賛成スル事能ハスト述ア「カーノ」ハ直ニ最高會議ヨリ右ノ趣旨ヲ米國ハ伝フルニ非ズ米國ニシテ其ノ意向アリト認メラル場合ニ初メテヤラ為サントスルノ意ナリト著く「スマーチルサ」

ノ意ナリヤトノ問ニ対シ同地占領ハ工業品ヲ通シテ独逸政府ニ圧迫ヲ加フルニ充分ナリト信スル旨ヲ答へ尚同地ニ於ケル石炭ニ対シ一噸五十乃至六十紙幣馬克ヲ課税スル計画アルヲ告ケ尚伯林進軍ノ意アリヤトノ議長ノ問ニ对シ斯ノ如キ計画ナキ旨ヲ答フ右説明終ハリテ後議長ヨリ他全權ニ何等意見ナキ旨ヲ確メタル上本案同意ニ決ス

(三)封鎖問題

「ビーチー」ハ先づ平時封鎖ニ依リ漢堡或ハ「フレーメン」出入ノ全独逸船防止ノ可能ナルコトヲ述べタル後兩港出入船舶ノ(不明)統計ヲ読ミ上ゲ更ニ語ヲ継ギ両港トモ水深ノ關係上輕巡洋艦ヲ送ルコト不可能ナルベク又何レモ河口ヨリ六七十哩ノ上流ニアルヲ以テ遡航ニ当リテ相当ノ危険ヲ伴フベク而テ愈々軍艦ヲ入ルモ(脱)(仮海軍代表者)ハ大体「ビーチー」ノ所説ニ同ジ封鎖ハ実行容易ナルモ外交上厄介ナル問題ヲ惹起スペク実効ヲ挙ゲントセバ税関ノ押収ヲ行フノ外ナント述ブ「スフォルザ」ハ封鎖ノ可否ニ付テ多大ノ疑ナキ能ハザル旨ヲ述ブ「ロイド、ジョージ」ハ法律家ノ意見ヲ聴クコトトスベシト提案ス「ヒューワート」(英國檢事総長)ハ条約第八編附

属第一、第十七及十八項規定ニ基ツク封鎖ハ所謂戰時及平時封鎖ノ何レニモ屬セサルヲ以テ独逸ノ関スル限りハ條約上ノ権利ノ行使トシテ問題ナシトスルモ中立國トノ間ニ難問題ヲ生ゼストモ限ラザルヲ以テ中立國ノ態度ヲ確ムルコト然ルベシト思考スト述べ「フロマジョー」ハ平時封鎖ノ可能ナルコトヲ述ベ若シ目的ガ賠償支払ノ強制ニアラバ一定ノ港ノ税關ノ占領ヲ行ハバ幾分封鎖ニ依リ生ズル困難ヲ少カラシメ得ベシ中立國船ニトリテハ何レノ港ニテ荷揚ヲ行フモ何等痛痒ナカルベキヲ以テ所謂封鎖ヲナサズシテ中立國船ニ一定ノ港ニ入ルベキコトヲ指令スルコトトシ其港ノ税関収入ヲ取上ゲルコトトスル方可ナラント述ブ之ニ対シ「ヒュワート」ハ右ハ交通ノ遮断ヲ目的トスル封鎖ト全然反対ノ方法ナリト評シ「ロイド、ジョージ」ハ「フロマジョー」案ヲ実行スルニハ占領港ニ入航セシムル為其以外ノ諸港ヲ占領スルコト必要トナル可シト述ベ「スフォルザ」ハ該案ノ実行ノ可能ナルヤ否ヤヲ疑フノ余地アルノミナラズ一般ニ封鎖案ノ同盟側ノ不利ニ終ルコトナキカラ恐ルト言ヒ本使モ同意見ナル旨ヲ述ブ「ブリアン」ハ本件策動ガ尠カラザル危険

ヲ伴フコト自分モ充分諒解スル處ナルモ独逸国民一般ニ封鎖ニ畏怖ノ念ヲ抱ケルコト甚ダシキニ鑑ミ實行ノ上ハ精神のノ効果多カル可キヲ信ズ陸上砲台占領ノ為ニ仏國ハ所要ノ兵數ヲ送クルコトヲ厭ハザル可キヲ以テ本件実行ニ付再考ノ余地ナキヤ漢堡ノ重要地位ニ顧ミ英國艦隊ニシテ同港ニ投錨ノ曉ニハ重大ナル影響ヲ人心ニ及ボスベキコト疑ヲ容レズト熱心ニ述ブルヤ「ビーチー」ハ本件ハ海軍問題ヨリ寧ロ政治的一般軍事的ノ問題ナリ英國海軍欲スル處ハ陸上ヨリ攻撃ノ防止ニシテ此ノ保障アルニ於テハ右等諸港ニ軍艦ヲ送ルニ何等異存ナシ而シテ税関押収ニ至リテハ之レ寧ロ海兵ヨリモ陸兵其任ニ當ルコト至当ナリト思考スト述ブ「ロイド、ジョージ」ハ英國ハ独逸ニ圧迫ヲ加フルコトヲ躊躇ストノ印象ヲ与フルコトヲ恐ルルヲ以テ今茲ニ本件討議ニ立入ルコトハ自分ノ好ム所ニ非ズ最近罷業ノ為陸兵ヲ送ルヲ得ザルノ状況ニアルヲ以テ仏國ノ後援ヲ為サント欲スルモノ本件ハ政治問題ニシテ独逸ノ人心ガ戰時中嘗メタル辛酸ノ記憶尚鮮力ナル今日之ヲ恐ルルコト大ナルノ事實ハ本件断行ニ当リテ慎重考量セザル可ラザル所以ナリ

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七九三

時期ノ問題ヲ「ブリアン」ノ裁量ニ任スコトトス
在欧米各大使、在白公使ヘ郵報セリ

七九三 五月十六日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

聯合側最後通牒ノ独国承認ニ対スル仏國ノ反

電報告ノ件

第七三三号

(五月十七日接受)

倫敦協定ニ基ク聯合側「ウルチマトム」ヲ独逸ガ承認セル
旨ノ報道ハ寧ロ冷カニ仏國新聞ニ迎ヘラレタルガ本件ガ當
輿論ニ与ヘタル大体ノ印象左ノ通

独逸ガ極力「ルール」占領ヲ避ケンコトニ努メタルハ了解
シ易キ所ナリ但シ独逸ハ賠償ノ支払ヒヲ約束セルモ果シテ
之ヲ履行スル誠意アリヤ甚ダ疑ハシク現ニ Reichstag =
於ケル其反対投票ハ「ヴェルサイユ」條約討議ノ際ヨリモ著
シク多シ此等ノ事実ハ今回独逸ノ承諾ヲ以テ賠償問題ノ最
終的解決ト認メシムル能ハズ今後其ノ履行ヲ厳肅ニ監督シ
仏國軍隊ハ「ライン」方面ニテ準備ヲ緩メザルヲ可トス若
シ独逸側ニテ義務履行ヲ怠ラバ賠償条項タルト軍事条項タ
ルヲ問ハズ「ルール」占領ハ自動的ニ行ハルベシ「ルール」

リ

七九四 六月十一日

内田外務大臣ヨリ

在英國林大使宛(電報)

獨國最後通牒受諾後モライン右岸三市ノ占領 及閥稅制裁ガ繼續セラレ居ルヤ問合ノ件

第三六九号

貴電第二七九号対独制裁中第一「ライン」右岸三市ノ占領
及第三閥稅制裁ハ独逸ガ五月五日ノ最後通牒ヲ受諾シタル
後モ其儘繼續セラレ居ル次第ナリヤ電報アリタシ
右本大臣訓令トシテ在仏大使ヘ転電アリタシ

七九五 八月三日 在獨國日置大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

仏國首相ノ演説ハ獨國ノ輿論ニ何等影響ナキ

第一八二号

(八月五日接受)

貴電第八二号ニ閲シ

「ブリアン」ノ演説ニ閲シテハ在仏大使ヨリ電報アルベキ
ガ當時新聞電報ニ依リ当國ニ伝ヘラレタル所ニ依レバ「ブ
リアン」ハ英國首相ニ対シテモ熱心ナル讚辞ヲ述べ居リ

一二 獨國ノ対独平和条約違反ニ閲スル件 七九四 七九五

九六四

占領ハ仏國ガ押ヘ得ル唯一ノ支払保證ナルガ故ニ五月一日

ノ機会ヲ逸セルコト甚ダ遺憾ナリトスル論優勢ナリ極右党
ニ属スル一二ノ新聞ハ右ノ事実ヨリ Briand ヲ叛逆者ナリ

ト攻撃セリ左党新聞ハ倫敦會議ノ結果英仏ノ協調ヲ全ウシ
且ツ費用倒レニ終ル虞アル「ルール」占領ヲ避ケタルコト

ヲ喜ベリ極左党新聞ハ「ルール」占領ノ実現セラレザリシ
ハ軍閥ノ敗北ナリトテ満足ノ意ヲ表シ且ツ現内閣ノ政策ヲ

攻撃シテ第四階級ハ軍閥ト資本家ノ行動ヲ猶嚴重ニ監視ス

ベキコトヲ警告セリ要スルニ仏國側ノ不満ハ賠償委員会議

查定総額ノ僅少ナルコト其ノ一ナリ対独最後通牒ノ形ニ依

リ「ルール」占領ノ機会ヲ逸シ支払保證ヲ手ニ入レ能ハザリ

シコト其ノ二ナリ倫敦協定ノ賠償案ガ仏國ニ一層ノ譲歩ヲ

余儀ナクセシメタルコト其ノ三ナリ而シテ倫敦賠償案ニ對

スル第一ノ非難ハ協定案第二条(c)項ニ掲グル債権八百二十

億「マルク」ノ配当ガ条件附ニシテ且ツ無利子ナルコトニ

シテ第二ノ非難ハ同第十条ノ實物償還ノ場合ニ於テ聯合側

ガ独逸ニ交付スペキ対象物ハ現金ヲ以テスル形トナルコト

ニシテ何故ニ前記ノ対象トシテ B 又ハ C 整理ニ属スル債権

ヲ以テ独逸ニ支払ヒ得ザルヤハ一部論者ノ攻撃スル点ナ

「ゾルフ」ノ閣下ニ語レルガ如ク日本ガ仏國ニ加担セリト
ノ感想ヲ独逸言論界ニ与ヘタル事實ナシ尤モ帝国代表者ガ
最後通牒ニ署名セル事ニ付大局ヲ弁ヘザル一部独逸人殊ニ
日本關係者中彼此不足ガマシキ批評ヲ為シタルモノアルコ
トハ耳ニセルモ右ハ要スルニ「ゴシップ」ニシテ一般輿論
ニハ何等影響ナシ将又本使着任以來独逸ノ帝國ニ対スル感
想ニ付テハ特ニ注意シ来レルガ大体ニ於テ良好ニシテ大統
領ハ五月三日即チ最後通牒ノ処分ニ閑シ上下率イテ昼夜奔
走ノ最中特ニ本使及伊太利大使ノミヲ茶ニ招キタル事實ア
リ彼ノ學界排斥問題ノ余波モ近來大イニ緩和シツツアリタ
ダ独逸人財產及工業所有權ニ対スル帝國政府ノ措置振ハ日
本ニ関係ヲ有スル独逸人ニ概シテ不満ヲ与ヘ引イテ當國新
聞紙上往々過激的記事ヲ見タル事アリ日独間若千ノ感情蟠
ルモノアリトセバ右ハ最後通牒又ハ賠償問題ノ如キ高等政
策ニ胚胎スルモノニ非ラズシテ全ク帝國政府ガ財產管理処
分上独逸個人ニ与ヘタル苦痛ニ基クモノト觀察セラル最近
「フランクフルター、ツアイツング」ガ青島ニ於テ五割ノ
解除ヲ実行セザル事實其他財產管理振ニ対シ攻撃セルニ付
同社伯林特派員來訪ノ節篤ト我立場ヲ説明シ置キタルガ尚

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 七九六

「ワアルブルク」ヨリ本使ニ書面ヲ送リ工業所有權換価額ノ不当ナル事ニ対シ不満ノ意ヲ洩ラシ来レル事實モアルニ付帝國政府ノ方針ハ（脱）当該官憲ノ実行振リニ対シ閣下ニテ特ニ注意ヲ加ヘラレ彼等ガ法規ノ末節ニ拘泥シ徒ラニ独逸人ニ苦痛ヲ与フルガ如キ事ナキ様切望ス英仏ヘ郵報セリ

七九六 十月一日 在仏國松田臨時代理大臣（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

獨國ニ対スル經濟制裁撤廃ニ付報告ノ件

（十月二日接受）

本年三月倫敦會議ノ結果聯合國カ独逸ニ附シタル經濟的制裁ハ八月十三日巴里最高會議ニ於テ独逸カ聯合國側ノ条件

英米独伊ヘ転電セリ

ヲ履行スルニ於テハ九月十五日之ヲ撤廃スルコトニ決定シタル處独逸ハ其ノ第一条件ハ規定通り八月三十日十億金麻克ノ支払ヲ了シタルモ第二ノ条件即チ輸出入許可証下附監督ニ関スル委員会設置ノ件ニ対シテハ兎角ノ理由ノ下ニ容易ニ之ヲ承諾セザリシ為メ右經濟的制裁ハ依然トシテ繼續中ナリシ處最近独逸側ニ於テ愈々第二条件ヲモ承諾スルニ至リタルヲ以テ「ブリアン」氏ハ九月十九日在仏獨逸大使ニ対シ右制裁ハ九月三十日限り之ヲ撤廃スル旨通告セル趣ナリ

第一四四九号

事項一三 日英同盟協約更新ニ関スル交渉一件

七九七 一月一日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

日英同盟ノ対米關係ニ関スル「ノースクリフ」

ノ声明ニ付報告ノ件

附記

大正九年十二月三十日在英國林大使発内田外務大臣宛電報第一一〇四号

日英同盟協約ハ米國ヲ適用範囲外ニ置クモノナル旨ノタイムズ社説報告ノ件

（一月三日接受）

第三号

十二月三十一日タイムズ所載紐育電報ハ合同通信倫敦通信員ニ与ヘタル「ノースクリフ」ノ声明ナリトテ大体往電第一〇四号後半日英同盟ノ対米關係ニ関スル分ト同趣旨ヲ報ゼリ前頭往電所報同紙社説ハ右声明ニ基ツキ起草セラレタルモノト察セラル

註 大正九年林大使発内田外務大臣宛第一一〇四号次ニ附記ス

（附記）

大正九年十二月三十日在英國林大使発内田外務大臣宛電報第一一〇四号

日英同盟協約ハ米國ヲ適用範囲外ニ置クモノナル旨ノタイムズ社説報告ノ件

一三 日英同盟協約更新ニ関スル交渉一件 七九七